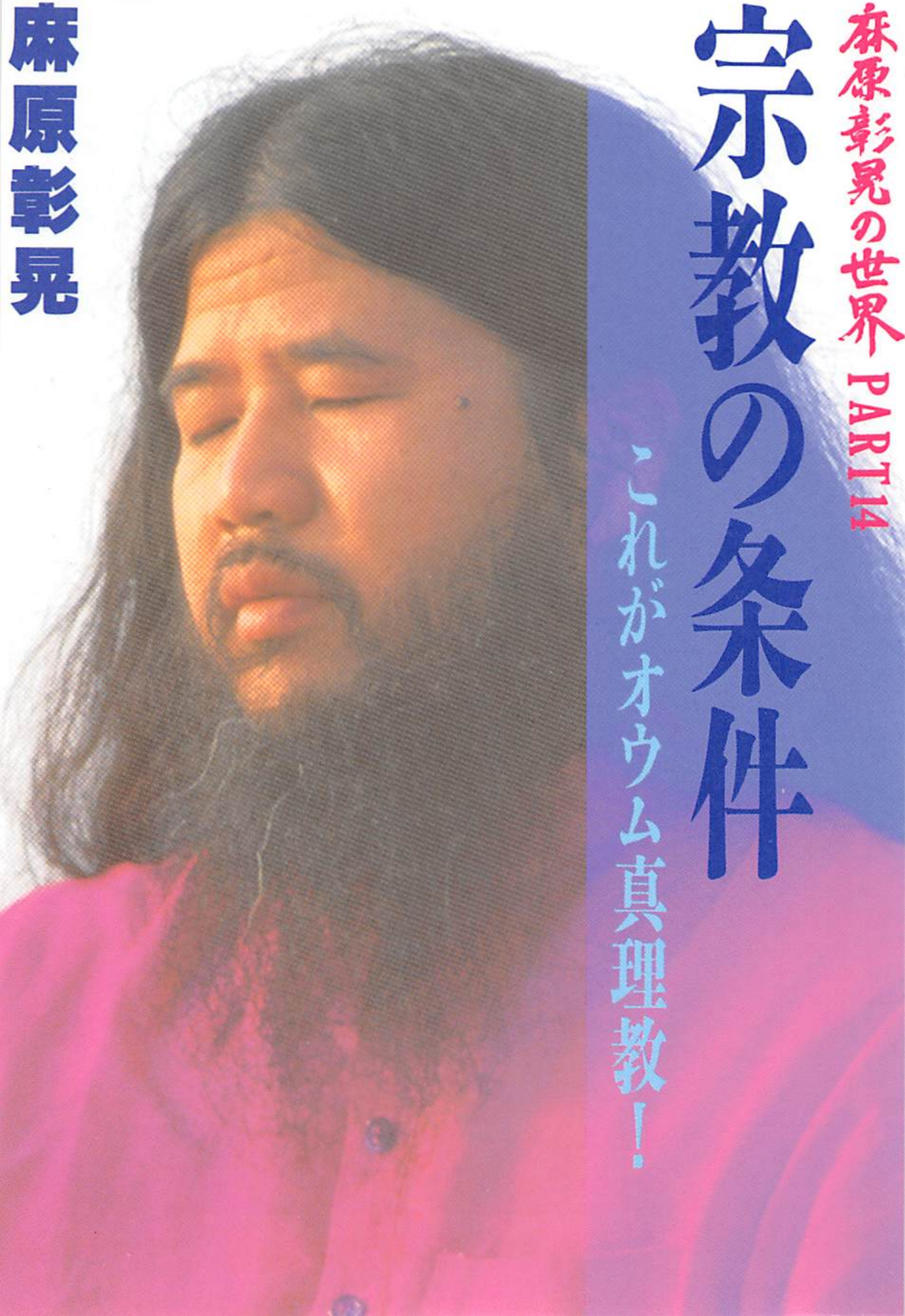
麻原彰晃の世界 PART14

宗教の条件

これがオウム真理教！

麻原彰晃



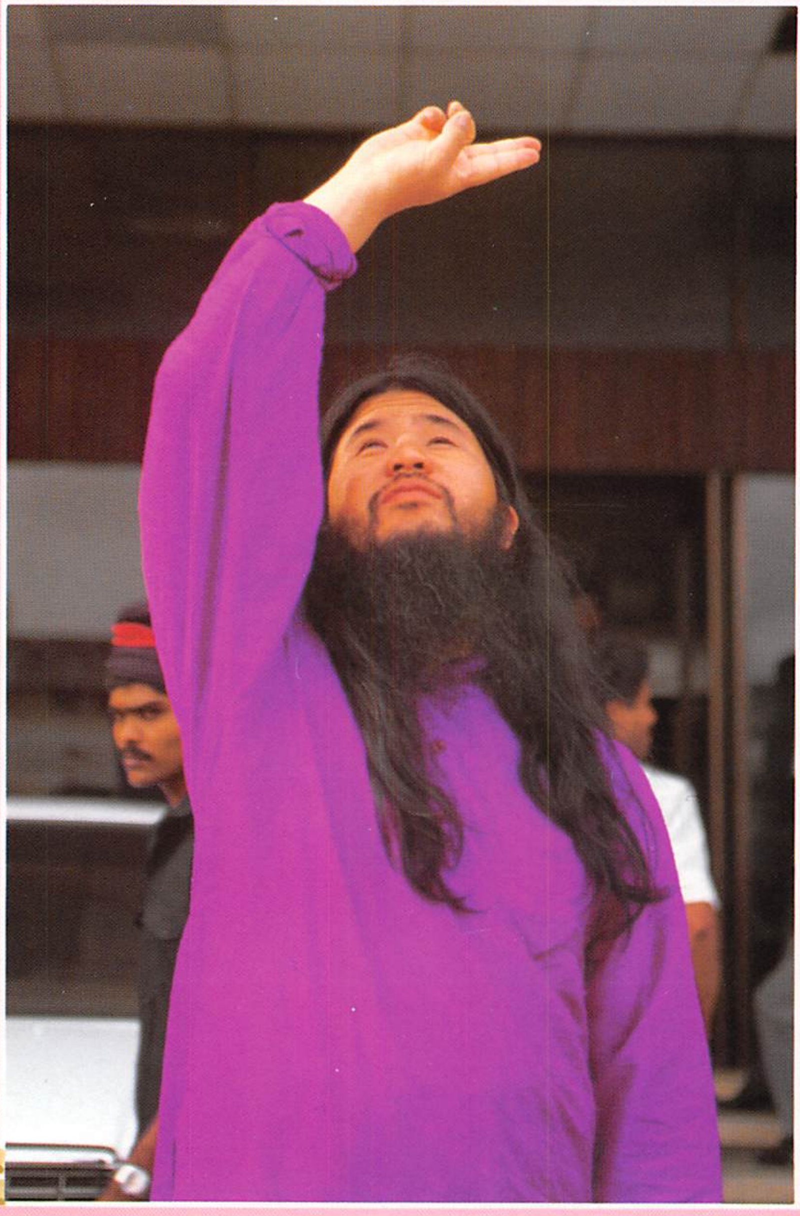
麻原彰晃の世界 PART14

宗教の条件

これがオウム真理教！

麻原彰晃





はじめに

真の宗教の条件とは？

新・新宗教ブームといわれる昨今、巷には新興宗教と呼ばれるものがあふれている。その数多くの宗教団体の中から、本物を見つけ出す基準は何か。

麻原尊師率いるオウム真理教では、真の宗教の条件として「五つの柱」を提唱している。それは、

(一) 教義に矛盾がないこと
(二) 最終地点へ導いてくれるグルが存在すること
(三) 先輩が経典どおりの体験をしていること
(四) 最終地点に到達できる修行体系が存在すること
(五) 速やかに修行を進めるためのイニシエーションが存在すること

の五つである。

本書の第一部では、この「五つの柱」を中心に宗教の条件を説き、第二部では、

オウム真理教の歩みとともに、いかにして現在のオウム真理教に至ったかを示している。

オウム真理教には、日本で、いや世界で唯一、最終解脱を果たされた麻原彰晃尊師がいらっしゃる。尊師は、深い瞑想体験によってこの世だけではない、地獄から高い世界の天界に至るまで、すべての世界の経験をされており、オウム真理教にはその何ものにも代え難い叡智によって導き出された、深遠な教義・修行体系が存在する。そして、現在はラージャ・ヨーガから大乗のヨーガまで、それぞれのステージの成就者（解脱者）が存在する。また、シャクティーパットをはじめとした様々なイニシエーションが存在する。これらについては、本書を読んでいただければよくご理解していただけるものと思う。

なお、数年前より、オウム真理教では、サキャ神賢（釈迦牟尼）直説の根本仏典を、原文であるパーリ原典から一語一語念入りに調べ上げ、それを麻原尊師の深い叡智によって現代人にも非常にわかりやすい経典に訳す作業が日夜続けられている。それによって、二千六百年前の原始仏典とオウム真理教の教義との比較

検討がなされ、オウム真理教の教えが真実であることが明らかにされている。また、正悟師（マハー・ムドラーの成就者）・正大師（大乗のヨーガの成就者）によるアンダーグラウンド・サマディなどにより、科学的にもその真実性を証明している。

この、パーリ原典からの訳語と従来の仏教用語の対比については、巻末に言語対比表として掲載しているので、参照していただければありがたい。

宗教とは、いやそれを超えた真理とは、本来、魂を下降方向に向ける煩悩を肯定するものではなく、わたしたちを迷妄に引きずり込み転生を誤らせる煩悩を滅却し、絶対的な自由・幸福・歓喜を得るためのものである。そして、オウム真理教には、その〝絶対的な真理〟が存在している。

最後に、本書を手にされた功徳のあったあなたが、真理の流れに入られんことを願ってやまない。

一九九二年二月

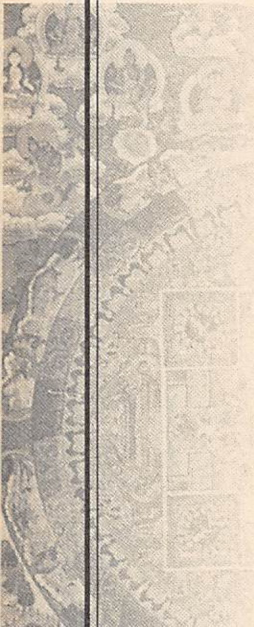
オウム真理教広報編集部



麻原彰晃の世界 ❖ PART14

宗教の条件

—目次—







第一部　宗教の条件

◆第一話　絶対自由・絶対幸福・絶対歓喜を目指して

「オウム真理教の提唱する四つの柱」

◉今、なぜオウム真理教か

信徒の皆さん、皆さんはなぜ今この日本にオウム真理教が必要なのか、しっかりと認識し、理解していらっしゃいますか。

オウム真理教と他の宗教団体との違いは、それはオウム真理教に四つの柱が存在しているからです。では、その四つの柱とは何でしょうか。

まず第一に、しっかりとした教義の体系が存在している。このオウム真理教の教義の体系は、今から何十万カルパ、何百万カルパ、何千万カルパの昔から存在している覚者方の流れの教えの体系なのです。そしてそれは、原始ヨーガの流れ

に、あるいは原始仏教の流れにエッセンスを認めることができます。したがって、他の教団と違い、その教えは深遠、そして絶対確実なものといわざるを得ません。

では、第二の柱とは何でしょうか。第二の柱とは、そこへ到達するポイントポイントにおいて、イニシエーションが存在しているということです。このイニシエーションとは、わたしたちが法を聴いたり学んだりするだけでは理解することのできない神秘的な部分に対して、エネルギーの移入を行なったり、あるいは意識をチェンジさせる特別な技法です。このエネルギーを移入したり、あるいは意識をチェンジさせたりする特別な技法、これは今、日本でオウム真理教だけが持っている方法です。

そして、三本目の柱、これは何でしょうか。これは、信徒の皆さんの道筋に、それぞれの段階において成就者が存在しているということです。一般に成就者を見た場合、その成就者は普通の人と何ら変わらないかのように見えます。しかし、その人の知っている世界は、一般の人とは全く違いますし、また使える身体もこの肉体だけではなく、多次元の身体を有しているわけです。そして、この成就者

の最終地点には、絶対自由・絶対幸福・絶対歓喜という状態が存在しています。

◉自由に身体を創造し、苦悩を滅し、歓喜に包まれて

では、この絶対自由・絶対幸福・絶対歓喜とは何でしょうか。

これは、まず絶対自由とは、わたしたちの意志と反して、病にかかり、老い、そして死んでいく身体と違い、心の本性がつくり出す身体を自由に操り、そして自由に創造し、そして、また自由にそれを元の状態に戻すと。つまり、身体を有して経験したいときは経験し、あるいはその身体が邪魔なときは、その身体を死滅することのできる状態、これが絶対自由です。

では、絶対幸福とは何でしょうか。すべての真理の法則を完全に悟り、そしていっさいの苦悩を排斥した状態、いっさいの苦しみを取り除いた状態、止滅した状態、滅尽した状態、破壊した状態、これが絶対幸福の状態です。

では、絶対歓喜とは何でしょうか。これは、わたしたちの内側に存在している善法、徳が増大することにより、わたしたちが行為を行なうことなく身体が歓喜

の状態で絶えずいられる状態、これが絶対歓喜なのです。

そして、この三つの状態は、心の本性とも、あるいは真我ともいわれるものの有する三つの状態なのです。そして、この状態に少しずつ近づいている成就者たちが存在しているということは、それは皆さんが道場に通い、師、あるいは正悟師、正大師等とお話をなさることによって、あるいはおそばに行かれることによって体感することができるはずです。

◉真理は最高の功徳の現われ

では、第四番目の柱とは何でしょうか。それは、根本グル、そして根本的な経典を有しているということです。そして、この第四番目の柱、根本グル、根本経典、これを完全に有し、その存在が今あり、そしてその法則が実践できる皆さんは、大変素晴らしい功徳のある方だといわざるを得ません。

そして、この四本の柱を完璧に有している、それは今のところ、日本においてはオウム真理教しか見いだすことができません。ですから皆さんは、オウム真理

教の信徒として確信をもって日々の学習、そして日々の実践、そして日々の宗教的行事に励んでいただきたいと思います。

そこにいくら素晴らしい法則があったとしても、それをもし実践しなければ、それは絵にかいた餅にすぎません。そこにいくらおいしい食べ物があったとしても、それを食べなければ、その本当の味わいを理解することはできません。

さあ皆さん、この四つの柱を皆さんの土台とし、そしてしっかり日々の修行に励んでいただきたいと思います。

一九九一年七月二十日　第二サティアン・ビルにおいて収録

◆第二話　何をもって正しい宗教とするか

「四つの柱と四つの悲しみ」

◉宗教の意味合い——魂の解放

今日は、まず縁について、そして、何をもって正しい信仰、あるいは宗教とするかについて、みんなと一緒に考えていきたいと思います。

三本の道があると。そして、一本目の道は、真っすぐ行くと崖があり、そして猛進すると崖から落ちてしまうと。二本目は、真っすぐ行くと海があり、行き止まりであると。そして、三本目の道は、目的地へ達成することができると。こういうふうに三本の道があったとしましょうね。

そして、ここに頑固な人がいて、わたしは第一の道がいいんだと。そして、第

一の道で目的地へ到達することができるんだといって、車に乗り、猛スピードで走ったと。当然、この人は、崖から落ちて即死をしてしまうだろうと。
あるいは、同じように頑固な人がいて、周りが「その道は、正しくないよ」と、「その道は、海があって行き止まりなんだよ」といっても、「いや、わたしはそんなことは信じない」といったとしてね、その人が同じように車に乗り、ね、猛スピードで突っ走ったとして、やはり海にぶつかり、引き返さなければならないだろうと。
そして、第三の道を選んだ人だけが、目的地へ到達することができると。
宗教も、これと同じ意味合いがあるんじゃないかと思うんですね、わたしは。じゃあ麻原、宗教の意味合いとは何だといったら、わたしは、すべての魂の、あるいは実践している人の魂の解放にあると。解放とは何だといったら、すべての煩悩(ぼんのう)から解放され、本当の意味で自由になることだよと、そのようにわたしは話します。
もちろんね、しかし麻原と。ここに、すべての願望のかなう人がいたら、それ

は解放じゃないのかと。確かにそのとおりであると。しかし、よく考えたらわかるとおり、わたしたちはすべての願望をかなえることはできないんだね。そして、それは魂のスケールが大きくなればなるほど、あるいは魂が清められれば清められるほど、その本質的な意味合いというものが理解できるようになると。

ではいったい、何をわたしたちはかなえることができないんだといったら、どんなに喜びが多い人生であったとしても、わたしたちは死というものから免れることはできないんだと。そして、死というものに気づかされないように今までわたしたちは生きているけども、しかし、実際に死というものは存在するんだよと。あるいは、病というものは、あるいは老いというものは存在するんだよと。

◉死後の世界へのアプローチ

ではいったい、何をもってその苦しみから解放することができるんだと。それは、わたしたちの本質的な魂、心を、この現象の世界、肉体の存在している世界から解放するならば、当然超えることができるんだよと。そして、それだけでは

なくてね、死を克服できるぐらいだから、もちろん他の現世的な苦しみというものも、わたしたちは乗り越えることができるんだよと。

そして、その教え、教義ね、これが存在していること、これをもってわたしは正しい信仰といいますと。

しかし、キリスト教では天界へ至る道が説かれているじゃないかと。しかし、よくこれを考えたらわかるとおり、キリスト教だってこの現世の話をしているのではなくて、死後、不滅の人生があると、死後、不滅の魂があるんだよということをいっているわけだよね。

そして、イスラム教、これももちろん『旧約聖書』と、ね、それから『コーラン』、戒ね、これをもとにしているわけだから、当然、死後の世界の話をしていると。仏教はどうかというと、輪廻論(りんねろん)を展開して、同じように死後の世界の話をしていると。ということは、世界の三大宗教といわれている、仏教、キリスト教、そしてイスラム教というものは、死後の世界に対するアプローチなんだなということがわかるわけだね。

◉四つの柱——正しい信仰、正しい宗教の定義

では、次に麻原と。何をもって正しい信仰とするのかと。何をもって、正しい宗教とするのかという問いが発せられたら、どう答えなければならないのか。

先程も言ったとおり、猪突猛進したとしても、もしそれが盲目的な信仰であれば、わたしたちは破滅に至らなければならないと。よってわたしは、あなた方が正しい宗教の選択をする場合、四つの指針というものをね、お持ちになったならば、間違いのない正しい宗教を選ぶことができるんじゃないかなと考えているんです。

では、その四つの指針とは何かといったら、まず第一は教義であると。教えだね。この教えが、もし矛盾がなければね、いいんじゃないかと。つまり、例えば本尊をすり替えたり、あるいは、ね、AというパートとBというパートでは矛盾していることをいっていると。これではちょっと、もう既に正しい教えではないなと。なぜならば、教義というものを背景として、わたしたちは修行しなければならないわけだね。つまり、この教義というのは、正しいか正しくないかを選定

するための第一条件である地図に当てはまるわけですね。

そして、第二段階では、その地図はあったと。しかし、その地図を使って、乗り物はあるのかと。いくら地図があったとしても、乗り物がなければ、わたしたちは二本の足で歩かなければならないと。ところが、最終地点までの距離は遠いわけだから、なかなか二本の足で歩くことはできないと。だとするならば、当然スピードを速めるための乗り物が必要であると。それは存在するのかと。つまり、修行体系がしっかりしているかということだね。もし、きちんとした修行体系があるならば、その教義にのっとって修行を進め、ね、必ずや最終地点に到達することができると。

そして、第三番目には、果たしてそれを、その地図を使って目的地に到達した人がいるのかと。ここに知識の優れた人がいて、ね、その人が論理に矛盾のないような体系を組み上げたと。そうすると、その地図は完璧であろうと。そして、結果が出ようと出まいと、ね、独特の修行体系をつくり上げたと。修行体系も完璧に見えると。

　しかし、五年経ち、十年経ち、二十年経っているのに、その地図を使っても、だれ一人として目的地へ到達できなかったと。ということは、この教義、あるいは修行体系のどちらかに問題があると。あるいは、両方に問題があるということになると。つまり、第三段階では、ね、その地図を使って目的地へ到達した人がいるのかどうかという問題が挙げられると。
　そして、第四段階では、その地図、あるいは修行体系、あるいは目的地へ到達した人は存在すると、ね。しかし、それだけでは不安であると。なぜならば、今、自分はどこにいるのかわからないと。もし、地図を正しく使っているつもりでも正しく使っていなかったら、ちゃんと正しい道に引き戻してくれる人がいるのかどうかと、ね。つまり、正しい先生――ま、これをオウムではグルといっていますけど、あるいは大師といっているけどね――グル、あるいは大師が、存在しているのかどうかということになると。
　そして、この四つの柱をきちんと持っているもの、これを正しい宗教であると、わたしは考えていますと。

◉オウム真理教の四つの柱

まず、ね、それをオウム真理教に当てはめるならば、『マハーヤーナ・スートラ』、あるいは『イニシエーション』（ともにオウム出版）といわれている本が、一応は教義の根幹をなしているものと。特に『マハーヤーナ・スートラ』は、教義の根幹をなしているものということになるだろうと。

そして、修行体系というのは、例えばヨーガタントラ・コース、例えばポア・コース、例えばシッディ・コースといった中に、いろいろ含まれている修行体系がそれに当てはまるだろうと。

そして、経験者はどうかというと、在家の人、あるいは――在家ってわかるね、普通の生活をしている人――あるいは、出家の人――出家というのは、現世を捨ててわたしの弟子になった人――この人たちが、ま、だいたい、ね、成就者としては六十名ぐらいいると。そして、それだけではなくて、もう信徒であるならば、例えば霊的な体験、いろんな体験をすると。だから、その地図にはいろんなポイント、ポイントで経験者が存在していると。

そして第四番目には、あなた方が霊的に、あるいは現世的に困ったとき、必ずそばに大師がいてくれるというね、この四つの条件を備えているわけだ。
「そんなことといったって、俺は信じない」と、おっしゃる方がいらっしゃるかもしれない。しかし、それはね、今日話す、もう一つの縁なんだね。
縁とはどういうものかというと、例えば、ここに二人の女性がいたと。一人は、すごく美人であると。ねえ、もう一人は、あまり美人ではないけど気立てが優しいと。そして、美人と結婚したならば不幸になると、気立ての優しい人と結婚したならば幸福になるという条件があったとしましょうね。ところがもし、わたしたちの中で単なる美人と縁のある人は、その不幸になる道を選んでいくだろうと、ね。気立ての優しい人と縁のある人は、当然幸福な結婚生活を送っていくだろうということになると。
それと同じように、ここにいかに四つの柱を掲げているオウム真理教があったとしても、縁がなければどうすることもできないんだね。これは、ね、お釈迦(しゃか)様が、〝縁なき衆生は度し難し〟と。縁なき衆生は度し難しというのは、「縁のない

者は救済できないんだよ」といっていらっしゃると。

そこで、わたしはよくね、信徒の方に、四つの悲しみを考えなければならないと話をするわけだね。

◉菩薩の四つの悲しみ

それは、最も大きな悲しみとは何かというと、いまだ真理に縁のない人に対する悲しみと。これは、大悲の悲しみといわれると、ね。なぜならば、真理に対して縁のない人は、間違いなく六つの苦悩する世界を輪廻転生し続けるわけだから、この人たちに対しては、本当の意味での大悲を持たなければならないと。

そして次に、真理とは巡り合ったんだけど、その真理と正しくないものとの間での選択を間違っている人。この人に対しては、中悲を持たなければならないと。中悲というのは、真理と縁が生じているわけだから初めの人に比べたら徳があるわけだけど、しかしいまだ真理の実践ができないと、ね。

そして次には、真理であることはわかって入信なさったんだけどもね、すぐ落

ちてしまうと。それは現世的なもの、あるいは修行そのものがつらいと。この人たちに対しては、少ない悲ね、小悲の悲しみを持たなければならないと。

そして最後にね、成就寸前で落ちていく人たちがいるわけだね。成就というのは、要するに彼岸に到達する直前で落ちていく人たちがいるわけだけど、この人たちに対して、微細なね、悲しみを持たなければならないといっています。

そして、ここに集まっている人たちは、少なくとも第二の条件、真理との縁のおありになる方だ。そしてこの中で、大乗の発願、あるいは大乗仏陀イニシエーションを聞いて、心打たれた人もいらっしゃるだろう。あるいは、心打たれないまでも、納得できる詞章だなとお考えになった方もいらっしゃるだろう。その人たちは間違いなく、前生で菩薩の修行をしていたといえると。

いくら、ここにね、真理があったとしても、その真理を選択なさるかなさらないかはあなた方のカルマだから、よくお考えになって、そしてできるだけ早く真理の実践を始めてください。

一九八九年三月二十一日　東京本部において

◆第三話　日本初の現世的ではない教え

「人間の本質を見抜いた真理」

◉増える在家成就者

実はね、今月、まずラージャ・ヨーガの在家の成就者が二人出ました。名前は、中山さんという方がチューラガヴァッチャという名前なんだけどね、ンガッパ・チューラガヴァッチャ（現在は正師、クンダリニー・ヨーガの成就者）。もう一人、山本君という人で、この人はラマニーヤヴィハーリンという名前を得たわけだけど、それからあと、クンダリニー・ヨーガの成就者、これは、ンガッパ・ヴェール・カンダキヤーがヴェール・カンダキヤー尊者（現在は師）になったということで、一応在家の成就者も着実に増え出してきているという状況です。

でね、これもやはり、信徒の方の応援、ね、あるいはオウム自体が大乗の修行

システムであるということの証明ではないかと考えています。で、まあわたしのいっている修行体系、あるいは霊的体験というものは、経験しなければ仕方がないわけだから、それを着実に歩んでいる在家の方、あるいは出家の方がいらっしゃるわけだから、皆さんもそれを目標として励んでほしいと。

◉〝太陽の法〟——周りを照らせ

で、講話に入る前に、いつもと同じように大乗の発願を十三章、それから大乗仏陀イニシエーションの苦の詞章を十三章しましょう。

〈大乗の発願〉
ホー、湖面に映る虚像のような様々な幻影に引きずられ
輪廻の大海を浮沈する生き物たち
彼らすべてが絶対自由・絶対幸福なる
マハーヤーナにて安住することができるよう
四無量心込めて大乗の発願をいたします

はい目を閉じて、ね、今わたしたちが唱えている詞章、これも瞑想です。そして、この詞章の意味合いを考えること、これは最も難しいヨーガ、マハー・ムドラー、あるいはジュニアーナ・ヨーガの修行であると。

ホー、湖面に映る虚像のような、様々な幻影に引きずられ、輪廻の大海を浮沈する生き物たち。ねえ、多くの魂が迷妄に巻き込まれ、輪廻の大海を浮沈していると。彼らすべてが絶対自由・絶対幸福なるマハーヤーナにて、ね、本当に安らぐことができるよう、安住することができるよう、最も素晴らしい心の働き、四つの無量心を背景として大乗の修行をしますよと、大乗の発願をしますよというのが、この詞章の意味だね。

そしてこれからね、七章、また唱えるわけだけど、その意味をよく考えて唱えましょう。目を開けて。

〈苦の詞章〉

自己の苦しみを喜びとし、他の苦しみを自己の苦しみとする

これはちょっとわかりづらいよね。なぜかというと、どうして自己の苦しみが喜びなんだろうかと。しかし、カルマの理法を知ったとき、それはおのずと解明できると。自己が苦しみにひたっているとき、自分のなした悪業を消滅するわけだから、来世、当然高い世界へ生まれ変わることができるだろうと。もし、自己の喜びを喜びとするならば、功徳を消耗してしまうわけだから、来世は三つの悪趣に生まれ変わるだろうと。

次は逆に、他の苦しみを取ってあげること、これは大乗の修行につながると。そして、いまだ真理に気づかない人の苦しみというものは、次にまた新たな悪業を生むことになるから、できるだけ苦しみを取ってあげて、真理に目を向けさせ、そして真理の実践をさせること。これが、最も素晴らしい修行となるわけだね。

そして、その修行の完成者、他の多くの人の苦しみがその人の中に内在してしまったとき、すべての人の苦しみがその人の中に内在してしまったとき、その人は大乗の仏陀に生まれ変わるんだということだね。

はい、目を開けて。一般の宗教的な考え方によると、自分の幸福を願わないも

のは駄目であると。そして、宗教というものは、その人の幸福のためにあるんだよと。ところが、仏陀釈迦牟尼の太陽の法を含めた――太陽の法というものは、太陽の働きを見たらわかるとおり、いっさいに光を与えていると。いっさいに熱を与えていると、ね。そして、そのものは、ものすごく熱い熱い、大変な熱の世界を形成しているわけだね。そして、最終的には太陽は冷え切り、普通の星になってしまうと。それでも、それまで熱を放散し続けると。これが、太陽の法の意味合いです。

そして、あなた方一人一人が太陽になり、周りを照らし、周りを真理に結びつけることができたならば、最高の世界が形成されるだろうね。

◉オウムの提唱する大乗とは

はい、それではね、今日の講話に入っていきます。

今日はいったい、大乗とは何かということについて、それから、真の宗教とは何かということについて話をしましょう。特に今日はね、信徒の方以外来ていらっ

しゃらないから、少し難しい話もあるかもしれないけども、それは『マハーヤーナ』（当時の教団機関誌）の前の号を読むとか、あるいは『実践真理』（当時の教団の雑誌）をお読みになってね、あるいはわたしの著作集をお読みになって補ってください。

まず、大乗の定義と。大乗とは『法華経』ではないかと、あるいは、大乗とは『維摩経』ではないかと、あるいは、大乗とは『般若経』ではないかと、ね、こういう形でお考えになっていらっしゃる方がいるかもしれない。しかし、大乗のもともとの意味合いというのは、小乗に対して形成された名前であると。そして小乗というのは、個の悟り・個の解脱を求める修行体系。大乗というのは、そうではなくて、すべての人の解脱・悟りを求める修行体系ということになります。

ところが、日本の大乗の考え方というのには大きな誤りがあると。それはなぜかというと、既に大乗の解脱の意味合いというのがね、小乗の解脱以下に落ちているわけなんだね。どういうことかというと、単なる教団を大きくすること、単なる教勢を拡大すること、そして多くの人が社会事業を行なうこと、これを大乗

だと考えている。しかし、実際はそうではないんだね。大乗とは何かというと、要するに多くの人を涅槃させると。ニルヴァーナに運ぶことなんだよ。

じゃ、その大乗とは何から出てきたかというと、大きな乗り物という意味なんだね。小乗というのは、小さな乗り物という意味なんだ。で、その乗り物とは何かというと、輪廻の大海を、この岸から彼の岸、ね、つまりこの岸から彼岸に渡らせるための乗り物と。これが、大乗という意味なんです。

そして、オウムが大乗を提唱しているということは、多くの成就者が出ますよと、そして、多くの人が彼の岸であるコーザルの世界を経験しますよということなんだね。そしてそれが、もし達成できていれば、オウムは大乗であると。もし達成できていなければ、オウムは大乗ではなく、単なる他の教団と変わらないということになるわけだ。

そして、現にもう、ね、アストラルの経験をしている人は、何百人、あるいは何千人といるかもしれないと。そしてコーザルの経験者も、ね、数十人いると。よって、オウムは大乗の船としてのスタートを始めていますよということがいえ

るわけだね。
だから、まず、「そんなことといったって、お前、他の教団だって大乗じゃないか。大乗仏典を掲げているから」といったら、こう話さなければならない。「いやそれは、他の教団は大乗ではないんだ。なぜならば、彼岸に到達した人がいないから」と。では、彼岸とは何かといったら、コーザルであると。それは、光の世界であるということができるわけだね。

◉なぜ彼岸をコーザルといえるか

さあ、問題だ。じゃあ麻原、なぜ彼岸をコーザルといえるんだと。ねえ、ちょっと聞いてみようか。なぜ彼岸がコーザルだといえるんだと。
(信徒A) よくわからないんですが、解脱者の方がコーザルを体験して、それは素晴らしい体験だということで、それで彼岸という到達点にしたのではないかと思います。
(信徒B) えっと、潜在意識を渡っていって超潜在意識に渡るから彼岸、で、向

こうの岸という意味で彼岸かなと思います。

(信徒C) よくわからないんですけども、彼岸というものが最終到達点というものであるとすれば、現象界ではないということ。そして、アストラル界ではというこ と。ということはコーザル界。ということで、コーザル界ではないかということ、そういうふうに考えてます。

(尊師) よし、いいだろう。ところで、今日は彼岸なのかなぁ(笑)。そうなんだ。じゃあ、大変いい話になったね。

つまりね、わたしたちはデータによって動かされているんだよ。それはわかるよね。それはカルマだ。どうですか、これはまず。そして、そのカルマというのは、レーザー・ホログラフィー、あるいは、ね、光通信なんかと同じように、もともと光のデータを読み取って動いているロボットみたいなものなんだね、この現象界の肉体というのは。これはいいですか。そうすると、その根源に到達するということは、そのデータを操作できるということになるんだよ。その操作、つまり、もともとのわたしたちのカルマの根源に到達したということになるわけだ

ね。

つまり、カルマの根源に到達したということは、そのカルマの作用を受けなくなるよね。だから、彼岸なんだよ。そしてそこに戻れば、わたしたちは苦もない、楽もない状態になると。修行が進んでくれればね、大乗に入ってくればもちろん楽だけの世界になるわけだけどもね。

だから例えば、まあ今日は彼岸だといっていて、「ああ、今日は彼岸だ。何のことかわからん」と(笑)。これが、でも日本人だよ。で、何が何だかわからんけど、とにかく仏壇にお参りして、先祖様がどうこうと始まると。何の役にも立たないんだね、それはね。

そしてね、じゃなぜ彼岸イコール、コーザルといえるかというと――ポイントだよ――智慧(ちえ)という言葉を見てごらん。智慧というのは、知るの下に日が付くでしょ。あれは、智慧の「智」というのは、知識の「知」じゃないよね。知っているよね、これは。そうすると、智慧の智の下に日が付くというのは、太陽のことなんです。つまり、あれは光を表わしているんだね。わかりましたか。

つまりどういうことかというと、ねえ、彼岸に到達すれば智慧が生じると。これはいいよね、まず。そうすると、智慧の根源は光であると。これもいいよね。よって、コーザルであるという定義だね。

そして、漢訳をしたお坊さんたちも、おそらくその意味合いというものをインドから直接聞いて、「あー、光イコール、智慧だったんだ」ということを知ってね、知るの下に日を付けたんでしょうと、ね。よって、智慧のある人、本当に光の体験をしている人こそ、彼岸に到達した人といえると。いいですか。

◉正しい道を歩くために

で、オウムが大乗である以上、その光の経験者が、まあ数十人と、今。で、仏典では、ね、仏陀釈迦牟尼は五百名の阿羅漢(あらはん)をつくったと。つまり、五百名の光の体験をさせなさったということになっているけど、わたしは、実際は数千名だと思っている。そして、オウムが大乗であるということは、同じくやはり、少なくとも数千名、ねえ、わたしは「三万人の成就者を出すんだ」と言っているけど

も、三万人の成就者を出したいなと。つまり、三万人の光の体験をさせたいなと考えているんだよ。

ということは、それだけの人たちがこの岸から彼の岸に渡るわけだから、どうだ、大乗といえるよね。それが達成して初めて大乗といえると。で、今はマディヤヤーナ、中間乗ぐらいだね、オウムは。やっと数十名の成就者が出てと、ね。小乗というのは、だいたい一人のグルが、ね、一人、あるいは二人くらいの弟子を、一生懸命マハー・ムドラーをかけながら成就させるというわけだから。いいですか。

よって、君たちは誇りを持たなければならない。ね。ただ、今の話もそうだけども、例えばここに来ていない人は、その話を聞くことができないよね。よって、教学をしなければならないということになるわけだ。そして、多く学べば学ぶほど、確信を持つことができると。

よくね、

「わたしは、オウムに対して信がありません」と。

「そうか、信がないか。じゃあ、あなたは、いったい何回ポア・セミナーに出ましたか」と。
「いやあ、一回です。」
「じゃあ、何の本を読みましたか。」
「いやあ、先月号の『マハーヤーナ』です」と。
これじゃしょうがないよね。だって、信を持つにも、ね、オウムの教義とは何かと、ね、あるいは、オウムが提唱していることは何であるかということが理解できなくて信は持てないでしょ。どうかな。
だから、正しい道を歩くためにも、一生懸命学ぶと。正しい道を踏み外さないためにも、一生懸命修行すると。それが大切なんだよということだ。いいですか。

◉教義に矛盾がないか

はい、では次の話だね。ではいったい、何をもって正しい宗教とするかと。もちろん、オウムは真理であるから、もちろん、オウムは、ね、先程も言ったとお

り、もう既に成就者がたくさん出ているから、真理であるといえると。しかし、まだ真理に気づくことのできない凡夫、あるいは外道に対しては、どのような話をすればいいのかという問題になるわけだ。

よって、わたしはね、四本の柱を考えたらいいんじゃないかと。まずね、第一は、教義に矛盾があるかないかだね。これは、教義というものは、ね、その宗教の本質を表わすもの、例えば、ねえ、しょっちゅう奉っている仏様が変わるとかね——まあこれは、あるみたいだけどね、そういうところが——あるいは、しょっちゅう言っていることが変わるとかね。これじゃまずいわけだね。一つ筋が入っているかどうかということだ。そしてその筋が、現世的に見ても、つまり論理的解析を行なったとしても、ね、納得できるものであるかどうかということになると。

そうすると、こういう人がいるかもしれない。以前は、でも、麻原はニルヴァーナが最高の世界といっていただろうと。今は、マハー・ニルヴァーナといっているじゃないか、おかしいじゃないかと。しかしそれは、例えばね、そのカテゴリー

を広げたにすぎないわけだよね、範疇をね。だから、そういう矛盾ではなくて、例えば、以前はAといっていて、次はAを否定してBというと。次はBを否定してCというと。こういう教義というものを信じてはいけませんよと。これは狐の宗教といわれていると。ね、しょっちゅうコロコロ変わるから。いいですか。

◉経験を伴う修行体系

次に、教義はしっかりしているけども、それを実践していくだけの修行体系があるのかなということだね。もし、教義があったとしても、それは頭のいいね、論理的な解析のできる人が教典をつくるならば、論理的に矛盾のない教典がつくれるだろうと。しかし、その教義を、五年経ち、十年経ち、二十年経ち、あるいは五十年経っても、だれも経験していないと。ま、そういう教団も、結構多いよね。例えば、ね、霊障解脱だとか因縁解脱だとかいっていて、だれも解脱していないと、ね。これではしょうがないと。

◉宝の山に到達した人の存在

だから、次にあなた方が、ね、研究しなければならないこと、あるいは話してあげなければならないことは、いったいその方法でだれが解脱したのかと、だれが成就したのかと、あるいはだれが霊的体験をしたのかということを聞かなければならない。いいですか。

これはね、ちょうどこのようなものだね。ここに、道を案内するものがあって、そしてその案内の地図だね、地図に沿って歩いていった人がいると。そして、その歩いていった結果として、到達点があったと、ね。もし、到達点がなければだよ、例えばいくら立派な宝の地図があったとして、その宝の地図どおり歩いたのはいいんだけども、結局、ねえ、自分はどこを歩いているかわからないと。そして、今まで宝の山に到達した人がいないとなるならば、どうだ。それは、正しいとはいえないよね。

でね、ここで仏陀釈迦牟尼は、このようにおっしゃていらっしゃるんだね。

「わたしは、自分で持っていたのではなくて、得たんだ。今までの如来(にょらい)、あるい

は仏たちがたどった道を、わたしはたどったんだ。それはちょうど、このようなものである。昔、栄えた都がある。その、昔栄えた都、それが滅びて都だけが残っている。その都に対して、その都探しをして、ちょうど到達したようなものなんだ」と、ね。

つまり、以前からその世界はあるんだよということ。そして、そのための地図、それが修行法なんだよということだね。いいですか。

だから、教義、それから体験者ね、そしてその教義を裏づけする――第三番目になるわけだけど――正確な修行方法が必要であると。いいですか。

◉道案内をするグルの存在

そして、第四番目には何がくるかと、ね。第四番目にくるもの、それはパイロットがいるかどうかだね。つまり、道案内をする人がいるかどうか。グル、あるいは先生がいるかどうかということになると、ね。

どういうことかというと、いくら地図があったとしても、あるいはいくら今ま

で先輩たちがいたとしてもね、自分が今どこを歩いているかわからなければしょうがないと。だからきちんと、今あなたの歩いているところはこのへんだから、ここからこのような道を行きなさいよと。あるいは、正しくない道に足を踏み入れていたら、あなたの今歩いているところは正しくない道なんだよと。それは引き戻して、こうしなければならないんだよと。ねえ、この道が正しい道なんだよと。いいかな。それをちゃんと指導できる人——これは、オウムではグル、あるいは大師がその担当をしているよね。

よって、この四つの条件、まあそれに加えてね、付録的にその修行を速めてくれるものがあればそれに越したことはないと。それはイニシエーションだね。しかし、原則としてはこの四つのもの、つまり、教義がしっかりしているということ。修行体系がしっかりしているということ。それから、今までの先輩方が、その道を歩いて実際に到達したということ。そして、それを案内できる、ね、グル、先生がいるということ。この四つのものがあるならば、これは完璧な真理、宗教ということができるだろうと。いいですか。

◉自由とはカルマからの脱却

そして今、あなた方は偉大な功徳によって、この四つの実証をしているオウム真理教の信徒としているわけだ。もちろん、真理であればあるほどつらいだろうと。それは厳しいからね。そして、真理というものは、わたしたちの三つの煩悩、貪(とん)・瞋(じん)・癡(ち)というものを滅しなさいというと。ところがわたしたちは、その貪・瞋・癡、ね、貪(むさぼ)り、それから嫌悪、それから無智というね、この三つのためにこの人間の世界に生まれ変わっているわけだから、なかなか滅することはできないと。しかし、それを滅しなさいといっていると、ね。当然、つらいだろうと。しかし、そのつらさの後にあるもの、その壮快感、それから自由感は、ね、それは大変なものなんだよということだね。

しかし、麻原と。お前のいう、いったい自由とは何だと。例えば、ここに大金持ちがいて、あれが食べたければ食べると。ねえ、例えば、女性を買いたければ買うと。例えば、家を買いたければ買うと。飛行機を買いたければ買うと。例えば、政治家だってひれ伏せさせてしまうと。この方が自由じゃないかという質問

が出るかもしれないけど、これに対しては、あなた方はこう答えなければならない。

自由というものは、カルマからの脱却なんだと。例えば、プライドがあってプライドに縛られていると、それは苦であると。例えば、性欲があって性欲に縛られていると、それは苦であると。例えば、食欲があって、その食欲に縛られていると、それは苦であると、ね。もちろん、例えば性的な交わり、あるいは食べ物、あるいは条件として、プライドを満足させるような立場に立ってもいいわけだけども、しかし、それはあくまでもこの現象界の形であって、心がそれに縛られるということは苦であると。なぜならば、それを得ることができなければ、大きな苦しみが生じるからであると。あるいは、生じた喜び、この喜びが滅するとき、大きな苦しみが生じるからであると。

例えば、ここに愛する者がいて、愛する者と別れるとき、大きな苦しみが生じると。例えば、今まで豊かだった者が貧しくなったとき、大きな苦しみが生じると。例えば、高い地位に就いていた者、これが、ね、陰謀によって名誉を失墜さ

せられたとき、大きな苦しみが生じると。よって、それにこだわるのは苦であると。

で、ここで、小乗では、だからそういうものを無視して涅槃(ねはん)すればいいんだということになると。大乗ではそうではなくて、例えばシチュエーションとしてその立場にあるんだったら、それはそれでOKなんだよって。ただし、心がとらわれないように、心が縛られないように修行しましょうねということなんだ。

◉今までにない新興宗教

そして、ね、今までの新興宗教といわれているものは――オウムもはっきりいって新興宗教だからね。意味はわかるか。新しく興った宗教、新興宗教だ。わかるね、言っていることは。ところが、今、新興宗教の意味が取り違えられて、もうめちゃくちゃになっているよね。日本人は言葉も使えなくなったと。わたしはそう思いますよ。なぜかというと、オウム真理教――もうすぐ宗教法人になるけども――が宗教法人になったと。ねえ、そうすると、一九八九年に宗教団体になっ

たわけだから、これは新興宗教です。で、面白いのは、例えば仏陀釈迦牟尼も二千五百年前は新興宗教だったんだね、同じように、ね。よって、わたしたちが言葉を正しく使うということ、そしてわたしたちが、ね、真理の実践を行なうことは素晴らしいと。

でね、もう一つ考えなければならないのは、今までの新興宗教というものは、現世的な利益を説いたと、ね。そしてもちろん、現世的な利益を説けば、煩悩に翻弄されている人はついてくると。しかし、日本で初めて、現世的ではない教えが生じたわけだね。それがオウム真理教なんです。ね。

そして、この、全く現代の感覚と相合わないオウム真理教の教勢というのはね、これは、わたしはすごく数学が好きだから、数学的な話をするならば、今、日本で二番目に大きい新興宗教の立正佼成会——これは六百五十万といわれているんだけどね——その教団が昭和十三年から大きくなり出して、ま、今六百五十万になっているわけだけど、そのだいたい倍くらいのスピードで、大きくなっているんだね、オウムというのは。

つまり、どういうことかというと、今までの日本史の中で、最も速いペースで大きくなっている教団であると。これは、みんな知っていたかな。だから、最も速い、最も激しい、おそらく今から五年後にはね、叩かれるよ。麻原のスキャンダルはどうだとかね、それは（笑）。ねえ、オウムの金の使い方はどうだとか。必ずそうなります、これは。

というのは、公称でいったならば、ね、もう五万とも八万ともいわれている教団だからね、オウムは。公称って、どうやってあれ、換算するか知ってるか。要するに、オウムの出版している本がどれくらいばらまかれているかと、ね。これが公称なんです。だから例えば、公称三百万といったら、三百万冊の本が、月にばらまかれていると考えたらいいね。

◉一般の人の心を変えるエネルギー

で、ポイントはここなんだよ。なぜそれだけ大きくなっているかと。そうするとね、やはり人間は、本質的には煩悩を滅却したいと考えているんだね、これは。

そして、高い世界へ生まれ変わりたいと考えているんだ。それが、受け入れられ出しているわけではなくてだよ――ここはポイントだよ――受け入れさせられるような、つまり、一般の人たちの心を変えるようなエネルギーが働いていると。そして、それは何かといったら、真理教の大師のエネルギーなんだね。

大師が煩悩を滅却し、ね、そして大師が思念すると。そうすると、一人一人の大師は新興宗教の教祖ぐらいの力を持っているから、それは当然変わっていくよね、世の中は。で、果たして〝滅亡の日〟までのスピードと、それから大師が多くなって、聖なる祈り、あるいは、ね、みんなの煩悩を滅却する祈りをするということと、どちらが速いかということなんだね。

もちろんね、大師はみんなのカルマをしょうわけだから、煩悩をしょいすぎると大師だって魔境に入るんだよ。これはわかるかな、意味は。わかりますか。

つまり、大師の持っているサットヴァのエネルギーと、ねえ、それから、ここに魔境のエネルギーがあるとすると。光のエネルギーに対して闇のエネルギーだとするならば、もし、大師が過信をして、自分の光のエネルギー以上の闇のエネ

ルギーしょったら、そのときは魔境に入りますと。
もちろん、グルがいるから、帰依ができていればすぐ取り除けるけどもね。例えば、ケイマ大師のシャクティーパットもその典型的なものだね。やはり、徐々に徐々に暗性になっていらっしゃって、で、まあ暗性と善性を繰り返していらっしゃると、ね。
しかし、よく考えてごらん。本来は、例えばケイマ大師の例を挙げるならば、ねえ、ニルヴィカルパ・サマディという絶対的な安定の状態、涅槃の状態にあるにかかわらず、そのエネルギーを救済のために使っていて、自分の精神がバランスを崩そうとも救済なさると。
こういう大師が今、三十名とも四十名とも、ねえ、スワミ（出家のラージャ・ヨーガの成就者）、尊者を入れたら六十名ともいわれているわけだね。その人たちが救済を意識して、自分の安定ではなくて他の安定のために尽力していらっしゃると。どうですか、当然、世の中はよくなっていくよね。そしてそれを、ね、例えば経済的に、あるいは社会的にサポートしているのは、ここにいるあなた方な

んだよ。ね。よって、あなた方は素晴らしい菩薩の修行をしているということになるわけだね。

はい、ではね、今日の講話はこれくらいにしましょうかね。今日の話はよくわかりましたか。じゃあ、実践しようね。

一九八九年三月二十一日　東京本部において

◆第四話　ドライバー・センスを磨け

「車のよしあしよりドライバーの心を強く」

◉択法覚支――どの法を選択するか

今日はね、いったい何をもって正しい宗教とするのかと、そして、何をもって正しい教えとするのかについてね、話したいと考えます。

この地球上には、たくさんの宗教がある。たくさんの教えがある。そして、この日本にも数万とも、数十万ともいわれる宗教が存在している。わたしたちが、その中のどの法を採るか――まあ、これは仏教の、七覚支（しちかくし）といってね、解脱に至るための補助的な技法の中の一つの択法覚支（ちゃくほうかくし）、つまり、どの法を選択するかという一つの修行法があるわけだけども、それに相当する、今日の話なんだね。

まず、ここに一人の凡夫、いまだ真理を知らない者がいたとしようと。しかし、この人はある程度の智性の持ち主で、ある程度の正しい判断ができる条件を備えていたと。まずこれが前提条件になると。なぜならば、もし見る側が全く正しくものを見られない状態であったならば、この択法覚支の話というものは存在しないからであると。

そして、ここにある程度ものを正しく判断できる凡夫がいて――この凡夫というのはどういう意味かというと、まだ真理は知らないと。要するに、普通の生活をしている人という意味だね――何らかで困ったと。あるいは、精神的に行き詰まったと。そして、さあ、わたしは何かの教えにすがろうと、あるいは何かの教えを実践しようと考えたと、ね。

◉矛盾のない教義

このとき、まず出てくるもの、まず考えなければならないものは何かといったら、それは教義、つまりいろいろな教団の持っている、あるいはいろいろな人が

持っている教えの中に矛盾がないかどうかということになると。

ところが、例えば、これはオウム真理教だって矛盾があるじゃないかという人がいると。なぜならば、以前はニルヴァーナという言葉が登場していると、ね。ということは、オウムも矛盾があるから真理ではないのかという質問をする人がいるかもしれないと。

しかし、そうではなくて、これは仏陀釈迦牟尼が今から二千五百年前に登場したときもそうだったように、まずはヒナヤーナ、つまり小乗を説いたと。個人の解脱を説いたと。次に、マハーヤーナ、ね、他を救済する大乗の教えを説いたと。そして最後に、タントラ・ヴァジラヤーナを説いたと。つまり三乗を説く場合、順番があると。それはちょうど、小学生がまず足し算、引き算から学び、次は掛け算を学び、そして割り算を学んでいくのと同じようなものであると。これは、したがって教義の矛盾ではないと。

ではいったい、教義の矛盾とは何かといったら、例えば、ここではAというの

は肯定されていて、ね、Bのときにはそれが否定されるような教えであると。

例えば、ね、これは阿含宗の話だけども、阿含宗で以前は大日如来を奉っていたと。ところが、二月の講話では大日如来は拝んではいけないと。仏陀釈迦牟尼以外のものを拝んではいけないといっていらっしゃると。そして、例えば求聞持聡明法ね、これは虚空蔵求聞持法といって、実際には虚空蔵菩薩を本尊とするわけだけども――虚空蔵菩薩を拝んでその求聞持法を獲得するわけだけども――虚空蔵菩薩という名前は出さないで、求聞持法だけを出して、それは法であるといっていると。つまり、これは矛盾だね。

もう一度言うよ。例えばここに、以前は大日如来系統の、その密教系統を崇拝していたと。そして、今は阿含宗という名前の由来によって、仏陀釈迦牟尼以外のものを拝んではいけないといっていると。そしていっていながら、例えば求聞持法をやらせていると。ところが、その求聞持法の本尊は虚空蔵菩薩、仏陀釈迦牟尼じゃないわけだね。これは、例えば教義上の矛盾であると。ね、今わたしは阿含宗の名前を出したけども、阿含宗だけではなくて、これは、

ね、例えば百あるうちのほとんどの教団に矛盾があるだろうと。そして、矛盾のない教団もあるかもしれないと。だから、もし矛盾がないとするならば、それはOKであると。つまり、択法覚支の第一段階、教義においての矛盾というものは存在しないということになるね、これは。

◉解脱のシステムと体験

そして、じゃあ麻原と。教義だけ矛盾がなければいいのかといったら、そうではないと。次に、その教義に書かれていることを体得した人たちがどの程度いるんだろうかと。例えば、『法華経』には「梵我一如」という言葉があるけども、要するに宇宙と我とが一体となるという教えがあると。そして、その『法華経』を実践している者の中に、どの程度その梵我一如という体験をした人がいるかということが次の問題になってくると。

例えば、オウムの場合は、いろいろ『マハーヤーナ・スートラ』に書かれているとおり、解脱のシステムがあると。そして、一つずつ成就していけば、それに

対していろいろな体験が加わってくると。
これは、地図にたとえることができると。例えば、ここに宝の地図があったとして、その地図をいまだだれも使ったことがないと。あることはわかっていると。地図も読むことができると。しかし、それを使ったことがないのと、そうではなくて、今までその宝の隠されている地図を使って宝を掘り出した人がたくさんいるというのと同じであると。だから例えば、解脱を説くと、あるいは悟りを説く場合、あるいは霊能を説く場合、その経験をどの程度した人がいるのかということが問題になってこようと。これが第二の条件であると。

◉正しい指導者の存在

そして、第三の条件は、その地図を使いこなすことのできる――正しい地図があるとしてだよ――使いこなすことのできる、あるいはその地図を使って指導することのできる人がいるかどうかであると。例えば、それはグルと呼ばれるし、あるいは先生と呼ばれていると。そのグル、あるいは先生が存在しているかどう

か、これが次の条件になってくると。
なぜならば、どんなに素晴らしい地図があったとしても、ね、それをまだ経験したことのない人がここにいて、その地図の使い方がわからなければ、正しくない道に入るかもしれないと、ね。その場合、あなたちょっとそこの道を進むと、崖っぷちから落っこってしまいますよと。あるいは、その道を真っすぐ行くと、落とし穴がありますよと、ね。あるいは、ああ、その道を真っすぐ行きなさい、必ず目的地へ着きますからと。これが、正しい指導者の存在であると。そして、正しい指導者の存在、これが第三の条件であると。

◉経験者がいるかどうか

そして第四の条件は、正しい教えがあり、正しい地図がありね、指針がありね、そしてそれを使いこなす先生がいて、グルがいて、そしてどれほど多くの人がその道を歩いたかと。つまり、経験者がいるかということだね。この四つの道が、四つの条件がそろっているもの、これをわたしは正しい法だと考えていますと。

◉四つすべてがそろってこそ……

そして、この四つの中で、一つでも欠けているとするならば、例えばどんな偉大なグルがいたとしても、その人の経験は特殊な経験であると、教義的にまとまりがないとするならば、多くの人を一気に救済することはできないだろうと。もちろん、その場合、マンツーマンの指導を受けて、一対一の指導を受けてね、最終地点に到達することはできるだろうと。しかし、例えばそれが十人になり、五十人なり、百人になったときに、その人は指導できなくなるだろうと。

次に、もし素晴らしい教義があったとして、そしてその教義をまとめた、ね、指針図みたいなものがなければ、いったい自分は今どこらへんを歩いているのか、これが理解できないだろうと、ね。理解できないということは、次に何をやっていいのかわからないということになると。

そして、もし、ね、教義がしっかりしていて、指針図があったとして、先生がいなかったならば、ね、今自分は経典ではこのへんにいるのはわかっていると、ね、そして、次に何をやったらいいかわかっているけども、果たしてそれでいい

んだろうかと、自分は本当にこの地図上のここに存在しているんだろうかと、ね、わたしの向かっている道は、間違っていないんだろうかと、間違っているんじゃないだろうかというところで引っかかってくると。

そして最後に、もし経験者がいなかったとしたならば、この教義は矛盾がないと。この指針図も矛盾がないと。あるいは、この先生が言っていることも何となく素晴らしいと。しかし、本当はこれは幻影じゃないかと。なぜならば、今まで三十年、五十年、百年と続いている教団で、だれ一人としてまだその教義のすべてを経験した者がいないと。あるいは、だれ一人としてその指針図をちゃんと歩いた人がいないとするならば、いったい何を信じるのかということになってくるよね。

ところが、先輩がいるならば、あるいは高弟たちがそれを経験しているならば、あっ、あの人たちは今このへんを経験しているんだと。あるいはここまで終わっているんだと。だとするならば、今自分の歩いている道は正しいということになると。

◉ドライバーのテクニックを磨け！

そして、もしこの四つの条件を備えた宗教にね、あるいは真理に巡り合うことができるとするならば、その人はどんなに貧乏したとしても、その人はどんなにこの人間の世界において、現世において苦しんだとしても、あるいはその人はどんなに病で苦しんだとしても、その人を最高のカルマの持ち主であると、素晴らしいカルマの持ち主であると、これは仏教やヨーガではいっているんだね。なぜならば、それはね、次のたとえに値するんだ。

人生の現世的な苦しみというのは、車を買って外れたときのようなものであると。その人は、その車に乗っているときは、ブレーキの効きが悪い、あるいはハンドルが重たい、ね、あるいはアクセルやクラッチが重たいと、ね、あるいは車内が狭いと感じるかもしれないけど、それを脱ぎ捨てたとき、つまりその車から降りたとき、ね、その車の影響というものを全く受けないと。現世の喜びも、現世の苦しみも、いい車に巡り合ったときと、あるいは悪い車に巡り合ったときと同じであるといわれているんだね。

ところが、真理に巡り合うということは、そうではなくて、ドライバーのテクニックを磨くと、ドライバーの心を強くするのと同じだから、ね、もちろん、悪い車に乗ったとしても、ドライバーのテクニックがうまければうまく操縦していけるだろうし、あるいは心が強ければ、その車から降りた後も、ね、素晴らしい生き方ができるだろうと。

ところがね、現世利益を考えている人たちというのは、その車と、それからその中の運転手、つまりドライバーとを混同してしまうんだね。そして、いい車、あるいは素晴らしい車に乗ろうとすると。もちろん、いい車、あるいは素晴らしい車、これは乗れたら乗れたに越したことはないと。

しかし例えば、ここに免許取り立ての人がいて、その人はあまり運転がうまくないと。その人が素晴らしい車に乗った場合と、心も強いし、運転技術の発達している人、この人が中程度、あるいはあまり良くない車に乗ったとして、果たしてどちらがうまく目的地に着けるだろうかと考えたらよくわかるよね。

そして、仏教やヨーガでは、そのドライバーを磨くと、運転手の技術を高める

ということ、ね、高める機会に巡り合ったということ、それを最高の功徳だといっているんだ。

ところがね、今日本の宗教的なものを見ると、わたしはどうもそのように見えないんだね。どうもその車、あるいは、ね、例えば家、ね、このような自分と本質的には関係ないもの、これで徳を評価しがちじゃないのかなと。

例えばね、仏陀釈迦牟尼のね――お釈迦様のことだね――前生には、盲目の女性というのがあるね。そして仏陀は、その数生後に仏陀になっているわけだ。で、これを考えるとおかしいなと。というのは、目が見えないということは、徳がないはずだと。なのに、なぜ彼は仏陀になったんだと、ね、真理を知らない人は考えるかもしれない。ところが仏陀は、そのときも、目が見えなくても一生懸命修行なさって、大いなる徳をお積みになって、そして数生後にね、仏陀釈迦牟尼として人類を済度なさったわけだね。

◉最高のカルマの持ち主

そしてここにいる皆さんは、その四つの柱を持っているオウム真理教と、強い強い、大きな深い縁によって結ばれている人たちだということができると思います。なぜならば、オウム真理教が動き出してわずか四年、まだオウム真理教を知っている人は少ない。

ところが、ここにいらっしゃる方々は、既にオウム真理教を知り、ね、まず矛盾のない完璧な教義というものを学ぶことができると。

そして、解脱のシステム、悟りのシステム、あるいは天界へ生まれ変わるための道というものを学ぶことができると。

そして、グル、あるいは大師が、あなた方が困ったときは親身の指導をしてくれると。あるいは、エネルギーの移入をしてくれると。

そして、あなた方には、先輩の信徒の方、たくさんの霊的な経験、心の経験、あるいは病から解放された経験を持っていらっしゃる方、あるいはそれより一歩進んで、スワミ、大師、ンガッパ、尊者のね、霊的体験、あるいはマハー・ムド

ラーの成就の体験、あるいはマハーヤーナ・ヨーガ——大乗のヨーガの成就の体験を、あなた方は生きているうちに見ることができると。そして、今あなた方は全力で修行することによって、その大いなる恩恵に預かることができると。

これは、最高の素晴らしいカルマの持ち主であると、ね、あなた方をわたしが称賛したゆえんなんだね。

今日、これを境に、自分の持っている最高の徳というものをもう一度称賛し、かみ締め、ね、真理の実践を行ない、素晴らしい運転手に、素晴らしいドライバーにね、生まれ変わりましょう。そして今生だけではなく、今生たとえあまりいい車に乗っていなくても、うまく操縦して、最終地点まで導き、そしてそれから降りたらね、徳によって次はもっといい車に乗る。しかも、その車にこだわらないで、自分の運転技術を磨くように、ね、ドライバー・センスを磨くように努力しようではないですか。

一九八九年三月十九日　仙台支部において

◆第五話　教義は実践してこそ恩恵が

「来世も最高の宝物を」

◉真理を守れ――忍び寄る脅威

まず、わたしが、ね、去年、あるいは一昨年と予言した、軍国主義の波というものが、一歩一歩あなた方に、ね、迫ってきていることをあなた方はご存じかな。例えば、「朝日新聞」の、今から四日ぐらい前の新聞だったと思うんだけどもね、ある自衛官が仕事の最中に亡くなったと。そして、それを護国神社に祭ったと。で、彼の家族はクリスチャンだったと。で、これが、合憲であるか違憲であるかということに対して、ね、これは憲法上問題がないよという判決が下されたよね。

これは何を意味しているかというと、一概に、ね、国家神道の波がわたしたち

のそばに打ち寄せてきているとはいえないけども、しかし、そういう要素が刻一刻と強くなってきていることは事実だね。そして、わたしたちは、もし今の今こそね、この真理の救済の輪というものを広げなければ、わたしたちから真理というものは遠ざかってしまう。

これだけではないよね。例えば、今の自民党の動きを見ていると、結局は間接税だって、ね、あれだけ国民が反対したにもかかわらず、間違いなくわたしたちの目の前に登場するだろう。それは、わたしたちが、例えば日々の生活の中で食欲に興じ、スポーツに興じ、そしてセックスに明け暮れていると、ね。あるいは金儲けに明け暮れていると。こういう実態がある。そのスキを見計らって、こういう波が押し寄せてきているんだよね。だから、もしわたしたちがこれに気づかなければ、わたしたちはいずれ真理というものを失うことになるだろう。

そして、オウムの教勢がね、オウムの勢いが大きくなってくればくるほど、ぶつかり合いが始まるんではないかなと考えています。

わたしたちの本来の目的は、この世を純粋な道場として、そしてわたしたちが、

あるいはわたしたちの縁のある者たちがこの地球という道場に生まれ変わって、ね、輪廻転生し、そして必ずや絶対的な自由・幸福・歓喜というマハーヤーナに至るためのステップとしてね、この地球を守らなければならないという義務があるんだということを本当に認識したとき、わたしたちは救済者としての、あるいは修行者としての、本当の意味での自覚をね、身につけたと考えていいのではないかと考えています。

もちろん、すべての魂が、このコーザル世界、アストラル世界、現象の世界という、三つの世界に気づき、そして涅槃を願うならばね、それはそれでもいいのではないかと。しかし、まだ無智の世界にひたっている、わたしたちの周りの縁のある人たちは、ね、わたしたちが自己の涅槃を考えるのではなく、マハーヤーナに入り、彼らのために救済というものを考えない限り、彼らを救済することはできないわけだね。

そして、少なくとも、今信徒数二千三百のね、オウムの信徒がね、一丸となって、わたしはわたしの周りの人たちを救済するんだと、わたしはわたしの縁のあ

る人たちを救済するんだと考えたならば、今から五年、十年では救済できないかもしれないけど、百年、千年、二千年となったときに、必ずや、この地上のすべての魂がマハーヤーナに入り、そして最終的にはマハー・ニルヴァーナに入り、絶対的な自由・幸福・歓喜、そして仏陀の心をね、得ることができるのではないかとわたしは考えています。

もちろん、わたしを含めて、オウムの大師方、そしてスタッフ（当時でいうところの出家修行者）、ね、みんな一丸となって自己の身命をなげうってあなた方と共に救済の輪を広げ、そして一人でも多くの人たちを絶対的な状態に導くために協力をすることは、当然のことだと考えている。

◉真理の実践——最高の宝物を

近ごろね、わたしは関東の会員が、少しオウムから離れ出したんではないかなと考えているんだ。そのオウムから離れ出したというのとはどういうことかというとね、他の宗教的な団体と同じような接し方をあなた方がしているんではない

かなと考えているわけだ。しかしだよ、オウムというものは、教義があり、その教義を実践してこそ、初めてあなた方に偉大なる恩恵を与えることのできる組織なんだね。

つまり、ここにでんとした真理があると、ね。このでんとした真理を背景として、あなた方がそれを食らい実践するならば、あなた方は必ずや絶対的な自由、ね、あるいは幸福、あるいは歓喜の世界に没入できるだろう。しかしそうではなくて、ここにいかに素晴らしい教義があったとしても、ね、この教義をただ絵にかいた餅のように拝んでいるだけでは何の役にも立たないという、一つの証明ではないかとわたしは考えています。どうかな、これは。

近ごろ、ね、東京のボーディサットヴァの動きは、他の地区に比べてすごく鈍っているとわたしは考えている。しかしだよ、あなた方だって、きちんとイニシエーションを受けて、例えばきちんとシャクティーパットを受けて、そしてきちんと修行をし、きちんとバクティーの実践をするならば、必ずやラージャ・ヨーガ、クンダリニー・ヨーガ、あるいはマハー・ムドラー、ジュニアーナ・ヨーガの成

就ができるんだという一つのね、証明になったんではないか。どうだ。
そして、あなた方がそのために、今このオウム真理教にいるんではないか。ね。他の団体でも、同じように絵にかいた綺麗な餅はね、飾っている。しかし、オウム真理教と他の団体の違いはね、オウム真理教は絵にかいた餅ではないんだよ。これは実践可能なんだ。そして、実践をすることによって、あなた方は必ずや、今のね、絶対的な自由、絶対的な幸福、絶対的な歓喜でない状態から脱出して、ね、三つの至福を得ることができるんだ。
今までいろんな宗教が成立してきた。そして例えば、先祖供養を説く宗教、あるいは霊障を説く宗教、あるいは超能力を説く宗教が現われ出た。しかしだよ、あなた方の見ている前で、あるいはあなた方の知り得る範囲内でだ、その教祖というものは偉大かもしれないけども、その信徒がね、釈迦牟尼の時代と同じように、期間を区切ってこれだけの間に何人成就をしましたよと、あるいはどういう神通力を身につけましたよと、あるいはどういう心の状態になりましたよと、発表できた組織があるか。そしてあなた方は、今ね、最高の宝物を手に入れている

んだ。それは、今生だけではない。来世に対しても最高の宝物を手に入れていると考えてよろしい。

◉解脱・悟りへと導く四本の柱

もう一度言うよ。わたしたちは、最高の教義を持っている。最高の瞑想法を持っている。最高の修行システムを持っている。最高のイニシエーションを持っている、ね。しかし、これを実践しなかったならば、これは単なる絵にかいた餅だ。あなた方はこれを実践することによって、一つずつ確実に精神的な進化をし、必ずや解脱をし、悟るだろう。

そしてわたしは、あなた方に悟ってほしいと思っている。解脱をしてほしいと思っている。あるいは、今生で駄目なら、少なくとも天界へ至ってほしいなと考えています。そのためには、真理、教義を学びなさい。瞑想のテクニックを学びなさい。行法を学びなさい、ね。各種のイニシエーションを受けなさい、ね。そうすることによって、必ずや今の状態を脱却できる。

じゃあだ、いったい、この今挙げた四本の柱とは何だと。教義というものはまず何だと、ね。教義というものは、オウム真理教がなぜこの世に存在しているのかと、ね、そして、それはいったいどういう修行システムを持っているのかと、ね、そして、そのときに心はどう変化するのかと、あるいは霊性はどのように変化するのかということが教義だ、ね。

じゃ次に、瞑想法とは何だと、ね。これは、インド仏教の言葉を借りるならば、チァリヤ・ヨーガ、クリヤ・ヨーガ、ヨーガ・タントラ、アヌルッタラ・ヨーガ・タントラという四つの瞑想法だね。日本的な言葉を借りるならば、ね、所作ヨーガ、行ヨーガと、ヨーガ・タントラと、そして無上ヨーガ・タントラという四つの瞑想技術だ、ね。この四つの瞑想技術を持っているのは、今、日本ではオウム以外にない。

じゃあだ、その瞑想に深く入るための行法はあるのかと、ね。これは、わたしが今まで修行してきた、ハタ・ヨーガの体系、あるいはラージャ・ヨーガの体系、あるいはクンダリニー・ヨーガの体系からいろんなもの、特に必要なものを、ね、

抜粋して用意されている。これが行法だね、三本目の柱の。
じゃ最後の、シャクティーパットを含めたイニシエーションとは何だと、ね。これは、あなた方の修行をね、いかに短くしていくか。ね。例えば、ケイマ大師（現在はマハー・ケイマ正大師、大乗のヨーガまで成就されている）が三つ目のヨーガを成就なさったけど、彼女にはたくさんのいろんな意味でのイニシエーションが行なわれている。もちろんだよ、最も素質のある人は、イニシエーションを受けなくても成就できるかもしれない。しかしそれは、膨大な年数がかかる。例えば、大乗の仏陀になるためには、数千生ね、千生、あるいは二千生とかかるわけだから、それを、ね、この生で終わらせるためには、あるいは一つでも二つでもいいから成就するためには、少なくともイニシエーションは必要であると。
わたしは一つね、あなた方に約束をしたいことがある。それは、今、多分来月号の『マハーヤーナ』に登場するだろう、満生さんという方がいらっしゃるんだね、九州の会員で。わたしはあの人を、信徒で第一号の成就者として仕上げようと考えている。

つまり、あの人はね、九州で一生懸命コースはやる。もう、シャクティーパットは十二回ぐらい受けているのかな。そして、若者たちを引き連れて、ビラ配りの班長をやって、睡眠時間、二時間ぐらいでね、全力でバクティーをやっていた方だ。わたしは、スタッフ以上の功績があると考えている。だから彼を、ね、遅くともこの秋口までには成就させたいと考えている。今までわたしは、ね、相手が逃げない限りだよ、この人を成就させますよといって、狂わせたことはない。

そしてそれはね、あなた方に対しても同じことがいえる。あなた方がきちんと、先程言った四本の柱にのっとって実践をするならば、必ずや、在家であろうともだ、成就することができるんではないかと考えています。

今日はね、少し激しい話をしたけども、たまにはいいだろう。いつも、ね、ゆったりとした、ニコニコとした麻原じゃなくて。そうでもないか（笑）。ね。そして、あなた方の前には、解脱、あるいは悟りというものがあるんだと、ね。必ず得られるんだということを確信をもってわたしについてきてください。

一九八八年六月四日　東京本部において

◆第六話　正しい薬一本に絞って

「グル――偉大なる医者」

◉信徒のままで成就

これは皆さんに約束だけどね、まず、もうバクティーを徹底的にやっていて、まあ彼なりに布施、奉仕を一生懸命実践していた、九州支部に満生さんという方がいるわけだけだけど、この人をわたしは秋口までには成就させたいと考えています、今。しかもそれは、信徒のままの状態でね。

まあ満生さんについて説明するならば、大阪支部の方も一生懸命やってはいるわけだけども、彼はほとんど道場に詰めっ放しと。そして、睡眠時間も二時間ぐらいしか取らないでね、若者たちを引き連れて、毎日夜はビラ配りと。そして周

りの人をどんどんどんどん、ね、オウムに入信させたと。そういう功績があるわけだね。

で、わたしは彼を見ていて——もう彼はシャクティーパットを十回以上受けているわけだけども——もういいよと、バクティーはと、そろそろ成就しましょうという話を今持ち出しているわけだ。で、あとは、修行の時期をいつにするかと、そしていついつまでに成就をさせましょうという話をもう始めているわけだね。つまり、あなた方が例えばスタッフにならなくても成就できるようなシステムをね、オウムでは用意し、そして約束しようとしているわけだね。さあ果たして、これだけのね、真理、あるいは宗教があるかと、ね。

しかしだよ、わたしは近ごろ、大阪の会員を見ていて思うんだ。これは大阪の会員だけではないね、全国の会員を見ていて思うんだけども、どうもオウムから遠くなったなと、わたしから遠くなったなという感じがするんだね。他の宗教団体とオウムとはすごく似てきたなという感じがするんだよ。これは大変残念なことだね。

◉オウムの特徴——四つの柱

オウムの、いったい特徴とは何かといったらね、四つの柱なんだよ。ね。四つの柱とは何かといったら、まず教義がしっかりしていると、ね。そして、成就するための瞑想のプロセスがしっかりしていると。瞑想技法がしっかりしているということだね。瞑想に至るための修行のシステムがしっかりしていると、ね。いいかな。それから、イニシエーションという、修行を短縮するためのテクニックがしっかりしていると。この四本の柱がオウムにあるわけだよね。

しかしね、近ごろの信徒を見ていると、この四本はあくまでもあなた方のあこがれであって、あなた方が食べようとしている餅ではないなという気がするんだ。ね、以前、まだ三百人、五百人、千人のころの会員さんは、一生懸命、絵にかいた餅じゃないぞと、自分たちはそれを食らうんだという気持ちがあった。しかし、他の宗教と今オウムは似ているよね。何かというと、オウムの教義は素晴らしいと。そしてそれを眺めているだけと、ね。

オウムと他の教義ね、他の宗教との違いは何かというと、この四つの柱を実践

することによって、あなた方に解脱はくるんだと、あるいは悟りがくるんだと、あるいは天界へ至る道があるんだということを実証できる、ただ一つの日本での宗教でしょ、これは、ね。いくらいい教義があったとしても、いくらいい瞑想技術があったとしても、あるいはいくら素晴らしい修行法があったとしても、あるいはいくら素晴らしいイニシエーションがあったとしても、これを受けなかったら、ね、成就はしないよね。解脱はしないよね。そこのところをもっと考えてほしいんだ。

今成就している人たちの中で、イニシエーションを受けなかった人、あるいはシャクティーパットを受けなかった人、ね、こういう人はいない、ね。ケイマ大師が三つ目のジュニアーナ・ヨーガ、ね、まあ、マハー・ムドラーを使ったジュニアーナ・ヨーガなんだけども、これを成就したのだって、たくさんの、彼女がイニシエーションを受けたからだよね。たくさんのシャクティーパットの経験があるからだよね。そして、その背景には帰依ができていたと。オウムの教義を理解していたということが背景にあるわけだ。

◉実践してこそ価値がある

もう一度言うよ。オウムと他の宗教の違い、これはいったい何だというとね、まず、きちんとした教義があるということ、ね。しかも、この教義というものは科学的でわかりやすいと、ね。そして、瞑想技術があるということ。この瞑想技術とは何かというと、ね、インドの仏教やヨーガでいわれている、チァリヤ・ヨーガ、ね、クリヤ・ヨーガ、ね、ヨーガ・タントラ、アヌルッタラ・ヨーガ・タントラという四つの瞑想技術だよね。これを日本の言葉でいうならば、所作ヨーガ、行ヨーガ、ね、そしてヨーガ・タントラ、ね、無上ヨーガ・タントラといわれているものなんだけども、この四つの瞑想技術を持っているのは、日本ではオウム以外あり得ない、ね。

そしてだよ、その四つの瞑想技術に至るための、例えばアーサナ、あるいはプラーナーヤーマ、ムドラーね、こういう技術を、ね、インドから、あるいはハタ・ヨーガによって、あるいはラージャ・ヨーガによって、あるいはクンダリニー・ヨーガの修行形態から素晴らしいものを抜粋して、オウムは体系だって持ってい

る。これは第三番目の柱だ。
　そして、こういう技術があったとしても、人間というのは煩悩の固まり、ね、カルマの固まりだから、そのカルマを浄化するための各種のイニシエーション、ね――大乗の仏陀に至るためには千生、二千生、三千生かかるといわれている――数千生かかるといわれている、その大乗仏陀への道をだよ、イニシエーションによって一生で成就させよう、あるいは十年で成就させよう、あるいは二十年で成就させようという、ね、その期間を短縮するのがイニシエーションだね、シャクティーパットを含めた。
　これだけの四つの柱を持っている、今、オウム真理教の中にあなた方はいるわけだ。しかしだよ、これを実践しなくてただ単に眺めていたら、それは他の教団と同じように、絵にかいた餅を眺めているようなものじゃないか。そうだろう。
　これは、わたしからあなた方に対するお願いです。ね。今のあなた方の段階で、できることで構わないから実践してほしい、ね。教義というものは、教えというものは、実践してこそ初めて価値があるんであって、実践しなかったらそれは何

の役にも立たないんだ。

◉わたしと大師だけについてきてほしい

さあ例えば、ここに『般若心経』があると。「魔訶般若波羅密多心経　観自在菩薩　行深般若波羅密多時」と。あれを何べん唱えていても駄目なんだね。例えばあの中にうたわれている、ね――このマントラを唱えることによって究極涅槃の状態に導きますよといわれている、ね――日本の言葉でいったなら、「掲帝掲帝　般羅掲帝　般羅僧掲帝」と、ね、正確な発音をするならば、「カーテーカーテー　ハラカーテー　ハラソーカーテー」、これを何回も、何十回も、何百回も、何千回も、何万回も、何十万回も、何百万回も唱えてこそ、般若心経の意味合いがあるんだね。それと同じように、オウムのこの四本の柱があって、この四本の柱を実践してこそ、初めてあなた方に恩恵があるわけだ、ね。そこのところをよく理解してほしい。

それからもう一つ、『般若心経』は素晴らしいお経です。これは『大般若経』

の中の一つ、ね。そして、これは大乗の修行の一つのマントラ、釈迦牟尼のマントラ、「オウム　ムニ　ムニ　マハー　ムニ　スワハー」とかいうのと同じだ。しかし、これはあくまでも大乗のプロセスであって、ゆっくり修行を進めるマントラだね。

ところが、前回わたしが富士山で与えた、例えばカーラ・チァクラのマントラ、このマントラ、「オーム　アー　フーム　ホー　ハム　キャ　マラワラヤ　フーム　ぺ」という、これはタントラのマントラで、これはあなた方の修行を一気に究極涅槃にもっていくためのマントラだ。

だから、今まであなたが持っている、ね、いいですか、それは正しいかもしれないけども、修行のスピードをあまり速めないものは、ね、すべて落としてほしい、ね。そして、わたしと大師だけについてきてほしい。

なぜわたしがそういっているかというと、ね、これは伝統的なヨーガの系統、あるいは仏教の系統ではこういう言い方をします。グルというものは、ね、偉大なる医者であると。あなた方の心を治す、あるいはあなた方の精神を治す偉大な

る医者であると。そして、法というものはね――法というのはオウムではこの四つの柱だね――妙薬であると、最高の薬であると、ね。そして、今のオウムのスタッフだね、これは最高の看護婦であると、ね。

ところがだよ、ここに薬があったとして、これは最高の薬であったとして、もう一つ違う薬を混ぜ合わせたら、いったいどういう変化が体に現われるか。その薬一つを飲んでいたならば、あなた方に、ね、徐々に徐々に浸透して、あなた方の病気を癒してくれるかもしれないけども――いや、くれるだろう――あなた方がそれを混ぜ合わせて飲むことによってだよ、ね、薬は逆に効かないどころか害を出すかもしれないよ。ね。

いいですか。だから、今あなた方が実践している、この四つの柱を持つオウム真理教というものは、今からあなた方が支え、そして成長させ、ね、そして救済の船としての大きな役割を演じさせなければならないわけだ、ね。その役割を演じないで、ね、正しい薬と正しくない薬と混ぜ合わせて、あるいは正しい薬と正しい薬が混ぜ合わさったとしても正しくない結果が出てくるかもしれないわけだ

から、ね、できるだけ一本に絞り、そして全力で修行してほしい。
先程言った満生さんが、オウムに入信なさってまだ二年ちょっとしか経っていないんじゃないかと思います。多分、秋口ぐらいでちょうど三年になるんじゃないかと思うね。信徒であっても、自分の家族というものを抱えていてもだよ、一生懸命努力をすれば、あなた方にも必ず、成就、悟り、そして最終解脱という道があるんだという確信をもって、ね、わたしと、それからオウム真理教についてきてほしいと思います。

一九八八年六月五日　大阪支部において

第二部　これがオウム真理教！

◆第一話　この世に生きているだれもが幸せになってほしい

「三つの救済」

「三つの救済が必要です。」
わたしは、折あるごとに三つの救済について話す。三つの救済とは、すなわち、
①人々を病苦から解放する。
②この世の幸福をもたらす。
③悟り・解脱へと導く。
ということである。一つ一つの詳しい説明は後に譲るとして、
「一生、三つの救済をし続けよう。」
と、わたしが決意するに至った経過をお話ししよう。

わたしは、一九七七年から修行生活に入ったんだ。もう十年も前のことになる。仙道・ヨーガ・仏教・密教といろいろな修行に手を出し、そのよいところを取り入れてきた。目指すは悟り、そして解脱。経典だけを頼りに独りっきりで修行に打ち込んだ。そして、ついにヒマラヤの聖なるヴァイブレーションに包まれて、悟りを開き、最終解脱をすることができたんだ。ちょうど一年前のことだった。

こうして、わたしは自らの修行を成就することができたのだが、悟りと解脱に到達したわたしに、どういう状態が訪れただろうか。

――絶対自由・絶対幸福・絶対歓喜――

わたしはこれらを手に入れた。また、死後「マハーヤーナ」に入る資格も得たし、方法も知った。この肉体を捨てることも、その時期を選ぶことも自由にできる。それに加えてシッディ（超能力）も得た。つまり、わたしはこの上もない幸福にひたれるはずなのであった。

ところが、これだけではわたしの魂は満足しなかった。どういったらいいだろうか。つまり、わたしだけが幸せで、他の人が苦しみの世界にいるということに

耐えられなかったんだね。

「この身を引き換えにしてでも、人々を救済しよう。」

次第にこう思うようになり、わたしの内で、それが自分の使命なのだと感ずるに至った。わたしは釈迦牟尼と同じ道を歩もうとしているのだ。

釈迦牟尼（しゃかむに）――。皆さんもこの方のことはよくご存じだろう。釈迦牟尼が悟りだけでなく、七年に及ぶ苦行の後に、菩提樹（ぼだいじゅ）の下で悟りを開いたという方である。というのも、釈迦牟尼の解脱もしていたということも、紛れもない事実である。解脱のプロセス（クンダリニー・ヨーガ）では必ず神通力が身につくのである。

神通力（超能力）がそれを証明しているのだ。

釈迦牟尼が、このように悟りと解脱を得ていたのなら、釈迦牟尼自身は絶対幸福の中にあったはずなのだ。しかし、彼は自分一人の幸福にとらわれず、仏教を広め救済活動に生涯を費やしたのである。だから、わたしも釈迦牟尼と同じ道を歩もうとしている――と言ったのだ。

さて、わたしの場合に戻ろう。まずは救済活動をする決意をしたわけだ。そし

て、その救済活動の具体的な手立てを考えるに至って、先に挙げた三つの救済が必要であることに気づいたのだった。したがって、この三つの救済こそ、これからわたしが展開していく救済活動なのである。

①人々を病苦から解放する

ストレスから、難病・不治の病まで、わたしたちの周囲には病気があふれんばかり。その病気の数だけ苦しんでいる人がいる。あるいは、命を落としてしまう人がいる、ということになるのだから、これはもう大変なことだね。あなたの身近な人が病気で悩んでいるというケースもあることだろう。ひょっとしたら、あなた自身が重大な病を苦にしているかもしれない。救済活動には、病苦からの解放を入れなければなるまい。

さて、その方法となると、次のものを列挙することができよう。

◎ヨーガ行法などの指導
◎インド神秘医学理論の普及

◎神秘的な力、超能力によって病気を治す
◎アストラル世界（異次元）から、そこの医療を持ち込んで治療する

まず、最初に挙げた、ヨーガ行法などの指導は、自分で治してもらうことになる。日本でのヨーガのイメージからすると、これでは頼りないと思われるかもしれない。しかし、わたしが指導するヨーガはヒマラヤ・ヨーガの秘伝なのだ。まあ、一例として次の文を読んでもらいたい。

「アレルギー性鼻炎とアレルギー性結膜炎で、毎年二月から四月の間は、鼻はズルズル、目はショボショボとひどく、ときには、一日でティッシュペーパー一箱がなくなるときもあった。しかし、今回初めて『ぬるま湯のネーティ』をやったら、四日目で、完全ではないが眼症状はほとんど気にならなくなり、鼻もときどきかむ程度にまで改善した。ヨーガには、一般人にとっては未知の、不思議と思える力があるようだ。」

これは、京都の一信徒さんが書いてくれた体験談の一部である。驚くことな

かれ、彼はれっきとした医師なのだ。現代医学に失望し、「真の医療とは何か?」ということを追求し続けている熱意ある人なのである。その彼がこのようにヨーガを評価してくれたというわけだ。

インド神秘医学の普及が方法の一つに入るのは、それが真理の核心をついた素晴らしい医学だからである。欧米諸国では、その優れた奇跡ともいえる医療効果に驚いた人々が、

「神秘医学は魔法か魔術だ。」

と言い出すこともあるほどなのだ。しかし、決して魔法でも魔術でもない。仏教理論や宇宙哲学を取り入れた「唯心的理論物理学」に基づいた医学なのである。この現代医学の先を見越したような神秘医学を広めなくては、と思う。

神秘的な力、超能力によって病気が治せるというのも疑いもない事実なのだ。わたしのような解脱者は、この方法で人の病気を治すことができる。

わたしはまず霊眼を使って透視をする。すると、病んで〝気の流れ〟が停滞しているところが黒く見える。(特にガンや喘息は、まっ黒になっている。)その

部分をわたしの霊的なエネルギーを入れることによって治すのである。軽い病気はこれだけで治ってしまう。ただ、重い病気は本人にも修行してもらわなければ完全治癒は難しい。

次のアストラル世界から医療を持ち込む、というのは、ちょっと面白いと思うだろう。超能力者（修行によってだれでも超能力を持てるのだが）は、アストラル・トリップというのができるのである。人間のへそにあるマニプーラ・チァクラに「変化身」と呼ばれるもう一人の自分がいるのだが、その変化身がアストラル世界へと飛んで行くことができるのだ。一言にアストラル世界といっても、異次元の多種多様な世界が存在している。そして、それらの世界の医療が、わたしたちの世界で役立つこともあるのだ。わたしが会員の方々に無料で貸し出している「ヒヒイロカネ」という霊的な石も、わたしのアストラル・トリップがヒントになっている。

また、アストラル世界の音楽で心の病気を治すとか、アストラル世界の医療を用いる病院を設立するとか、わたしもいろいろな構想を持っている。

②この世の幸福をもたらす

この世に生きているだれもが幸せになってほしい——わたしはこう願っている。愛情問題、交友関係、経済問題……挙げればキリがないが、わたしたちが生きていく以上、何回も不幸に直面するものである。しかし、不幸を寄せつけず、幸福だけを呼ぶことができたら、こんなにうれしいことはないだろうね。信じられないことかもしれないけれど、わたしはあなたに幸福になる方法を教えてあげることができるんだよ。

次は、わたしがシャクティーパット（霊的エネルギーの注入）をしてあげた人の体験談だ。運が良くなった鈴木伸幸君の場合——。

「まず、シャクティーパットを受けて全体的にいえることは〝運〟がドンドン良くなるということです。運といっても、仕事運、金銭運、恋愛運などとたくさんありますが、わたしの場合、三番目の恋愛運が爆発的かつ即効的に効果が現われました。」

鈴木君は恋愛だけでなく、学問運も良くなったという。

「先生に教わった頭の良くなる……特に記憶力の良くなる修行法を毎日とはいえないまでもできるだけ続けて、結果は志望大学（慶応）合格！（中略）今考えてみても、わずか数カ月の受験勉強！よく合格したと、不思議にさえ思います。」

わたしは彼にシャクティーパットだけでなく修行法も教えたのだった。その他現世利益として表われた結果として、次のように報告してくれた。いかにも学生らしいね。

◇自分にとってマイナスになる人たちとの決別、反対にプラスになる人たちとの出会い
◇第六感といわれるカンの良さ（人の気持ちが今まで以上によくわかる）
◇一枚しか買わなかった宝くじの当選
◇90％近い、パチンコ、マージャンの勝率

早川紀代秀さんも次のように言っている。

「日常生活においても、円滑化現象とでもいうようなことが起こるようになりま

した。例えば、『この約束流れてくれると助かるのになあ』と思っていると、考えられないような理由で先方からキャンセルしてきたり、『これはもめるだろうなあ』と覚悟を決めていると、驚くほどスムーズに事が運んだり、『欲しいけど予算がないなあ』と思っていると、めったにない中古品が手頃な値段で出ているのに巡り合ったり、『本当にこれでいいのかなあ』と思うことしばしばです。」

このような体験談が、わたしの手許にたくさん寄せられている。すべてはとても載せ切れないので、最後に病苦からの解放とも関係している中山浩子さんの体験談を載せてこの項は終わろう。

「主人の身（主人もオウムの会員です）に起きたことですが、自分のこと以上にうれしかったので書かせていただきます。

まず、四十年間ほとんど失明に近かった右目の手術に成功し、0・3までの視力回復にこぎつけました。あちらこちらの眼科医から見込みなしと宣言されていただけに、この成功は大きな喜びでした。暗闇から光の世界を獲得できた喜びに、三日も男泣きしていた主人を忘れることができません。現在、左右（左0・08）

の視力のアンバランスを解消するためリハビリを続けています。」

③悟り・解脱へと導く

わたしが一番力を入れたい救済は何といってもこれである。先に述べた「病苦からの解放」も「この世の幸福」もいわば前哨戦だったのだ。どういうことかというと、「病苦からの解放」と「この世の幸福」を得ることのできた人は、わたしのいうことを身をもって体験し、信じてくれるだろう。そういう人は、わたしが提唱している真理とか悟り・解脱に興味を持ってくれるだろう。そして、いずれはそれを目指して修行を始めてくれるだろう、ということなのである。悟り・解脱と現世的な幸福や病苦からの解放は一見矛盾している。しかし、あえてそれらを一緒にして「三つの救済」としたのは、このような理由からなのだ。

もっとも、中にはわたしの前世からの弟子がいて、いきなり悟りと解脱を求めてわたしのもとに集まってくるという事例もある。

例えば、わたしは山田泰明君に初めて会ったときにこう言った。

「君は前世で僕の弟子だったのだよ。」と。彼は涙を流し、身体を震わせた。そして、しばらく後、一歩退き土下座してわたしに言った。
「前世で悪いことをしたため、途中で止まっていました。」
こんな話を聞いたら、人間が生まれ変わるってことを信じていない人など、びっくり仰天だろうね。山田君は今もわたしのそばで修行をしながら仕事を手伝ってくれているよ。上祐君とか、新実君とか、杉浦君とかね。わたしの身近にいる弟子たちはほとんど前世でもわたしの弟子だった人たちだ。
さて、こういう前世からの弟子にも、先に述べたように他のことから興味を持ってくれている人たちにも、わたしは悟りと解脱を得て、真の幸福を手に入れてもらいたいと思っている。そう、絶対自由・絶対幸福・絶対歓喜ね——。そして、死んでからも今の人間界などの苦界に転生することなく、マハーヤーナに入れるということね。これが真の幸福だ。
この無上のステージに至るための理論とテクニックをわたしは指導している。

そして、わたしのシャクティーパットは、修行の進歩を促進するために使われているんだ。

ちょっと、そのテクニックに触れておこうか。中心になっているのは、ヨーガ技法の中の「無上ヨーガ」のシステムである。内容が全部瞑想という、ヨーガの最高位に君臨するヨーガである。また、この無上ヨーガは強い精神集中力が必須条件なので、精神集中力をつける修行を基礎として取り入れている。例えば、布施・持戒・忍辱・精進・禅定・智慧の六つの極限の修行、プラーナーヤーマ（調気法）、ムドラー（クンダリニー覚醒の技法）などである。まあ、わたしのつくったプログラムどおりに消化していけば、必ず成就するだろう。わたしは前世でも解脱した経験があったので、自分一人でやってきたが、経験のない人はわたしのプログラムに沿ってやるしかないよ。また、前世で解脱したにもかかわらず人間界に生まれてきたのは、わたしがそれを望んだからである。人々を救済するために——。

ところで、話は変わるが、日本中にわたしの前世の弟子がまだまだたくさんい

るはずなんだ。前世で修行者だったわけだから、今の日本のフツーの生活が合わず、苦しみ悩んでいると思う。そんな人、わたしになるべく早く連絡しなさい。別に自分の前世を覚えていなくてもいいよ。確信が持てなくてもいいよ。でも自分の魂がわたしに会うのを望んでいるような気がしたら、わたしに連絡しなさいね。

『マハーヤーナ』NO1（一九八七年八月号）より

◆第二話　古めかしいが中身は新しい

「〝オウム真理教〟という命名の由来」

（注）このころ尊師は、信徒のレベルに合わせ、他を利するための大乗の修行については意図的に説かれませんでした。したがって、この説法では個人の修行の完成を「最終解脱」と呼ぶなど、現在のオウム真理教の言葉の定義と一部異なるものがあります。

◉〝真理教〟でなければならない理由

今日は、まずオウム真理教というね、まあ非常に古めかしい名前にオウムがなった由来、それから、今後オウムがどういうふうな方向に行くかということについて、皆さんに話してみたいと思います。

まず、真理教というのはね、これは、考えてみると簡単なことなんだね。それは何かというと、要するに真理の教え。そうすると、皆さんの頭の中にはね、教が付くから古いとか、まあこういうお叱りの手紙を送ってくれた人、あるいは、教というのはもう宗教っぽくて嫌だと、ね、こういう、まあ電話あるいは手紙の人が数名だけどもいました。

しかしわたしは、これに対してはね、矛盾を感じているんだよ。それはなぜかというと、この真理教の「教」というのは、例えば教科書の教だ、ね。あるいは、『聖書』などの教典の教だよ、ね。つまり、教というのは単なる、これは教えという意味です。つまり、わたしたちは、今真理の教えを実践しているわけだから、真理教でおかしくはない。

しかもだよ、今からオウムが展開していく動きというものは、例えば運命学にしても非常に科学的だ、ね。科学的ということは、先程言ったとおり、この教、ね、真実の教えというものとつながってくる。あるいは、医学にしても、真実の教えというものとつながってくる。そして、世界でね、ただ一つスピーディーな

解脱システムを持っているオウムにとってはだよ、ね、真理教しかなかったわけだね。

そして、まあだいたいシヴァ大神からサインがくるときというのはね、その後の変化というのは目まぐるしい。非常に激しい。現に、真理教にしてわたしにきたサインというのは、まずケイマ（現在のマハー・ケイマ正大師）を悟らせなさい解脱させなさいということだった。ねえ、ケイマというのは、今オウム真理教の中心でもあるけども、もう一つ、出版とかあるいはオウムを動かしているね、中心でもある。だから、今こもってもらっては困るわけだ。しかし、こもらさなければならなかった。

そして、三日前に、要するにセルフ・リアライゼーションというね、悟りの究極の状態を得ました。いいですか。そして、今、この三日前からずっとわたしは彼女についているんだけども、おととい意思鞘と理知鞘の練習をずっとさせて、それから、順番からいくからその次は五大エレメントに入るんだね。で、五大エレメントをすべて霊視してしまったら、最終解脱に入ります。

そして、その中のまず地元素が終わって、水元素が終わって、ね、それから今日、火の元素が終わって、風元素の状態に入ってきている。ということは、あとは——もう何回もセミナーに出たことのある方だったらわかると思うが——風、空、ね、そして最終解脱だ、ね。ということは、言い方を換えるならば、今彼女はラトナサンバヴァの解脱、それからアクショブヤの解脱、そしてアミターバの解脱を行なっていることになっている、ね。そして、アモガシッディ、ヴァイローチャナと。そして最終解脱だ。

◉名前は本質を表わす

じゃ、なぜいきなりそこまで進んだのかというと、シヴァ大神の意思が、もう世の中の真理というものはないよと、麻原。それを、ね、あなた方が体験しなければいけないんだよということでね、そのためには「オウム神仙の会」（オウム真理教の前身）では生ぬるいと、名前は少し古いかもしれないが「真理教」でいきなさいということで真理教になった。

そしてだよ、もう一つの変化は、わたし以外だれも三昧に入れなかったんだけどもね、シャンティーが三昧に入るようになった。これは、一時間、二時間だけどね。まだ短いけども。いいですか。三昧ということは、『生死を超える』(オウム出版)を読んだことのある人は、どうでしたか、まず、苦ありて信ありと。信ありてクンダリニーの覚醒ありと、ね。クンダリニーの覚醒ありて悦。悦ありて喜ありと。喜ありて軽安ありと、ね。軽安ありて楽ありと。そして三昧でしょ。で、三昧でいろんな世界を体験して、遠離、離貪、解脱の状態がくるわけだ。つまり、難しい状態の三昧まで入れるようになったということは、あとは、解脱は時間の問題だということになる、ね。

他に、真理教になっていろいろと変化が出だしている。これは何かというと、名というものはね、名前というものはその団体の本質を表わす。いいですか。そしてオウムは、真理の教えを実践していこうではないかと、真理の教えを体得しようではないかということで、ね、真理教という名前になったんだよ。そして、あなた方もいずれ、解脱に向かっている人はわたしのそばに来て、ね、わたしか

らイニシエーションを受ける。あるいは、最終解脱をした者からイニシエーションを受けなければならない、ね。
前回のセミナーでわたしは、三名ぐらいの成就者を今年中に出すと言ったけども、今の状態だと、おそらく、ね、あなた方が協力してくださっているから、五名、七名のね、超能力者、いや最終解脱者を出すことができるだろう。そして、いずれあなた方も、最終解脱の恩恵をね、受けることができると思います。だから、わたしと、それからまだオウムのスタッフは若いけども、スタッフを信じてついてきてほしい。

◉わたしがいる限りオウムは崩れない

それからね、もう一つ、これはある会員の手紙にあったんだけどもね、オウムが組織的に大きくなるということは、他の宗教団体と変わらないわけだ、ね。だから、組織もこのままの大きさで維持して、麻原がわたしたちのための麻原であってほしいという手紙が来た。わたしはそのときね、まだ会員にはこの程度の人間

しかいなかったのかと思った。そうでしょう。わたしはセミナーの最中何と言っているか。わたしたちの修行の目的というものは、エゴを滅するためにある。そして、より多くの人に真理を知ってもらう。これがわたしたちの修行の目的だ、ね。

もちろん、今入会している人たちに対しては、満足してもらえるような修行内容と、それから成就者との直接の対話を持たせるようにしなければならない。そのために、わたしもオウムのスタッフもね、毎日毎日、ほとんど寝ない状態で動いている。だからね、成就者が今年中に五名から七名できるんだよ。そうするとね、例えば七名できたら、今八百人に対してわたし一人で十分だ。これが七名になったら、五千六百人に対してね、オウムが耐えられるようになるんだよ。

ところが、エゴの固まりの人は、あるいは真理の見えない人は、こう考える。そんな最終解脱なんか、ね、簡単に出せるものではないと。しかし、それは無智から出た考え方だ。釈迦牟尼如来(にょらい)が現われられたとき、二千人の成就者を出したよ。ということは、十六万人の、ね、本当の意味での会員に対して耐えられるだ

けの成就者がいたということになる。いいですか。今からわたしが考えていることは、わたしと同じすべてを知った人間をいかに多く出すかだ。そして、それをあなた方のためにね、いかに提供するかだ。わかりますか。

今日わたしは声が出ない。これは、ケイマに対してシャクティーパットをこの三日ぐらいでね、八時間から九時間ぐらい、ずーっと入れ続けている。だから、身体のエネルギーがない、ほとんど。だから、今あまり声が出ない。しかしそれは、彼女が成就することによってね、あなた方がよりいっそう身近に成就者をね、一人持つことができるというメリットのためにやっている。

いいですか、もう一度繰り返すよ。システム改善にしろ、それから、教勢の拡大にしろ、それから成就者と会員の比率にしろ、オウムは決して崩れることはない。これは、わたしがこの世にいる限り、そのバランスというものを崩すつもりはない。だから皆さんも、その点については確信をもって修行してほしい。いいかな。

そして、いずれは、解脱を目指している方は最終解脱をなさって、法を説いて

ほしい。シャクティーパットをしてほしい、ね。イニシエーションをしてほしい。これはわたしの願いです。それしかないんだよ。そうだろ。ここにキリスト教の教典がある。ここに仏教の経典がある。しかし、それをだれもね、解明することができないんだよ。真実を知らないから。例えば、わたしがこれが真実だといったとしてもだよ、だれがそれを証明できるんだ。

しかし、最終的に成就した人たちが、千人かもしれない、一万人かもしれない、三万人かもしれない、十万人かもしれないけどね、その人たちがだよ、すべて同じ点を指してこれが真実だといったならば——しかも、その人たちは人格的に尊敬できると。そして、スーパー・シッディを持っていると——その人たちが、宇宙の構成というものは、ね、まず粗雑次元においては熱が優位であると、ね、夢の次元、微細な次元、アストラル次元においてはヴァイブレーション、音のヴァイブレーションが優位であると、ね、精神的次元については光が優位であるということを示したら、それは真実となろうよ。そうでしょ。

この中で、たくさんの本を読んでいる人がいる。しかしだよ、もしその本が間

違っていたら、あなた方は間違った教えを真理として受け取り、そして間違った世界へ入っていくだろう。それをくい止めるためにはね、真の成就者をたくさん出すしかないんだよ、これは。そうだね。

◉同じものでも見る目によって

例えば、ここにいらっしゃる方、これはシヴァ大神だ。チベット密教ではグヤサマジャといわれている。これは何を意味していると思うか。ね。日本の感覚からいったら、とんでもないみだらな絵だ。男と女が愛し合っている。しかし、実際そうではない。例えば、この中央のブルー、これはわたしたちの執着を表わしている。霊視するとこの絵のようになる。それから、左側の白、これはわたしたちの曖昧さを表わしている、ね。そして右側の赤、これはわたしたちの怒りを表わしている。そしてこれは、ピンガラ、スシュムナー、イダーと、ね。

そして、この with consort、これはパールヴァティーでもいいし、あるいは、ダキニでもよろしいが、この交接というものは、わたしたちがグルヨーガで演じ

ているように、わたしたちのアストラル・ボディーをつくるための神聖なる接合だ。陰と陽の結びつきだ、ね。

そして、ヴァジラ、それから、曲刀、ね、ベル、経典、これは何を意味しているかわかるね、もう。ヴァジラはアクショブヤ、功徳を表わしている、ね。そして、ラトナサンバヴァの曲刀が意志を表わしている、ね。深い意味合いについてはイニシエーションでやるよ。

こういうふうにしてだよ、真理を教えるときに、一つ一つの、例えばわたしが絵解きをしたとして、いや違うね、例えば、この絵をあなた方が何も知らないで見たとして、ね、性欲をそそられることはあるかもしれないが、神聖な気持ちにあなた方がなることはない。しかし、このマンダラの意味合いをあなた方が一つ一つ理解したならば、あなた方にとっては、このマンダラというものは、あなた方を救済してくれる最高の仏様に見えるだろう。

このようにして、たとえ一つのものも、ね、真理の目で見た場合と、凡夫の目で見た場合は違うんだ。それを、表現するためにはね、それをあなた方にアピー

ルするためには、それはわたしだけではどうしようもないんだ、ね。そうだろ。わたしは、あなた方のカリスマになるつもりはありません。あなた方がわたしと同じステージに入り、そしてね、真の仏陀(ぶっだ)になることをわたしは望んでいるし、そしてそのためにわたしはいるんだよ。

それから、これから成就してくるケイマもそうだし、ね、今予定されている六人もそうだ。そのために存在しているんだよ。だから、オウム真理教というね、非常に古い名前だが、実際には全く新しい教えについてきてほしい。そして、実践してほしい。そしてね、絶対幸福になってほしいんだ。絶対自由になってほしいんだ。いいですか。

一九八七年六月二十四日　丹沢・集中セミナーにおいて

◆第三話　何に価値を見いだすか

「他の価値観を理解した上で」

◉ある女性をめぐって

はい、ではこれからポア・セミナーを始めます。

今日のポア・セミナーは、東京本部、あるいは名古屋、大阪と違ってね、「価値」についてまず話したいと考えます。

人間の価値というものには、いろんなものがあると。例えば、ね、価値という言い方を換えるならば、好みと、あるいは何を最も大切に生きているかというような問題とね、この価値というのは同じわけだけども、例えばね、女性がいると、ね。例えば、男性が女性を見た場合、いろんなものの見方で女性を見ているわけ

だけど、ね、例えば、まあ今日ちょっと一人怒鳴り込みにいらっしゃった方がいらっしゃって、それは非会員の方で奥さんが一生懸命修行していらっしゃると。で、自分の妻というものは、ね、とにかく布団も三日以上敷きっ放しであると、それからちゃんと掃除もしないと、ね、それからバケツの底が黒いぐらいの状態で、何が宗教だという怒鳴り込みの内容だね。それから、今経済的に苦しいんだと。

でありながら、何が入会金だ、何が月会費だという問題の怒鳴り込みがあったわけだけども、それでちょっと一つ、まあこれはひょっとしたら、その怒鳴り込みにいらっしゃった人だけではなくて、今日ここに集まってらっしゃる方の心の中にもそういう意味での観念というかな、価値における錯綜というか、転倒というものが起きているんじゃないかと思ったんでね、取り上げてみたいと考えたわけだ。

まず、ちょっと聞きたいんだけども、あなたはどういう女性が好きですか。

（信徒A）柔らかい感じの人です。

(尊師) 柔らかい感じの人が好きですか。あなたはどうですか。
(信徒B) 特に好みはないです。
(尊師) 何でもいいと(笑)。そういうことですか。例えばね、まあそのご主人のおっしゃる、例えば掃除もしないと、そして布団も敷きっ放しであると。じゃあ、こういう女性に対して、どう考えますか。はい。
(信徒B) 女性としてはやっぱり、きちんとしてほしいと思います。
(尊師) あ、そうですか。はい、あなたは?
(信徒C) オウムのバクティーとかするためにそうなったんだろうけど、並行して家事もやるべきだと…。
(尊師) ああ、そうですか。わたしはそう思わないんだね。

◉とらえ方の問題

つまりどういうことかというと、例えば、これはね、アメリカ、あるいはヨーロッパなんかの考え方とわたしの考え方と近いわけだけども、いったいどこを好

きで結婚したかと。で、まあ、その人はオウムのバクティーをやったからそうなったのではなくて、以前からそうだという話をしていらっしゃるわけだけど――これはね、その女性がそうであるということを今言っているんじゃないんだよ、ね――ご主人はそういう怒鳴り込みの仕方をしていると。で、今ここでわたしが何を題材にしたいかというと、とらえ方の問題なんだよ。ものの考え方の問題を、今ここで取り上げたいと考えているわけだ。

だから、それをそう考えないでほしいね。そう考えないでほしいというのは、例えばその事件の内容を知っている人は、わたしがそのご主人の言っていることを信じているというふうに考えないでほしいと。そうではなくて、今日はこれが題材であると、ものの考え方のね。そう考えてほしいと。いいですか。

わたしはそう考えないといっている背景は何かというと、まず、例えば夫として妻を愛していると、好きであるという場合、いったい何をもって愛している、好きであるといえるかと。あるいは恋人についてもそうだね、これは。そうすると、例えば初めから、ね、きちんと毎日布団を上げると、あるいはきちんと掃除

をすると、ね、あるいはきちんとバケツを洗うと。こういう人が好きだったら、そういう人を選べばよろしい。それはどうかな。はい、では、最も観念的なあなたに聞こう。はい。

(信徒D) そう思います。

(尊師) そうだよね。しかし、例えば結婚をして子供を五人生んだということは、それはどうかな、そういう要素以外のものを好きだから一緒にいたんじゃないか。はい。

(信徒D) はい、そう思います。

(尊師) だとしたら、その要素が今さら取り沙汰されることは、問題があると思わないか。

(信徒D) 問題だと思います。

(尊師) そうだね。そして、好きとか嫌いとかいう問題は、いいですか、その人が例えば布団を敷きっ放しであろうと、どういう状態であろうとも、好きならば好き、嫌いならば嫌いと。例えば、きちんと、ね、毎日掃除をなさると、きちん

と毎日布団を上げられる方でも、ねえ、離婚はあるわけだよね、当然。そうでしょ。だから、どの部分が好きでどの部分が嫌いであるか、どの部分を愛していてどの部分を憎むかということを、まず、ね、日ごろの生活の中ではっきりと認識することが大切であると。そして、自分自身のものの見方の傾向というものを理解するならば、もうとっくの昔に、ね、この問題は解決しているはずなんだね。

つまり、わたしにいわせるならば、ね、まあ例えばその家族というのは五人子供がいるわけだけど、五人子供を生んで、以前からそうだったとおっしゃるということは、ご主人はそういう奥さんの要素があったにかかわらず、奥さんを愛していらっしゃったと。ということは、きっと他に魅力があったんだろうと、そう考えられるわけだよね。

だとしたら、今さらそういう問題を取り上げるということは、これは単なる、ね、奥さんを制約するための、オウム真理教に来させないための一つの言い訳というか、一つの難癖というかにすぎないとわたしは考えている、ね。

◉車に価値を見いだすならば……

そして、今日のこの話というのは、ね、初めのイントロの部分にすぎないわけだけども、例えばね、はい、あなたは何に対して一番価値を見いだしていますか。

（信徒E）やっぱり、今は修行と学校の勉強ですね。

（尊師）はい、あなたはどうですか。

（信徒F）真理に目覚めているかどうか。

（尊師）うん。あなたはどうですか。

（信徒G）やっぱり真理。

（尊師）まあ、漠然に真理という言葉が出てきたけども、今日のこの価値の話、これも一つの真理なんだね。

何かというと、例えば、ね、これは今から半年ぐらい前に大阪であった話なんだけど、まあその人はバクティーもあまりなさらないで、入会なさってしばらくはオウムに不審を持たれたと。それは、例えばオウムの入会金は高いじゃないかと、あるいはオウムのお布施というものは高いじゃないかと、ね、そういう話を

なさったわけだけど、そのときわたしのなした説法というものは、あなた方に大変貴重な、非常にプラスになるだろうから、ここで話したいと考えます。

でね、その人は今一生懸命お布施もなさっているし、奉仕もなさっている。なぜかというと、その人はなかなか頭のいい人なんだね。そして真面目であると。で、その内容が理解おできになって、疑問がスパッと解けたわけだ。で、この中で、やはりおそらくオウム真理教にいろんな形での疑問があるだろうから、それに対しての、ここでね、一つの回答というかな、わたしの考え方を提示することは、あなた方にとって大変プラスになるんじゃないかと思って、今日は急きょね、その価値の話、先程の妻の話から入ってね、価値の話を話したいと考えたわけだ。で、わたしがその人になした話というのは、例えば、いいかな、ここに車を好きな人がいるとしようと、ね。そうすると、車を好きな人というのは、どうですか、その車を欲しいがために一生懸命働くね。これはわかるかな。どうですか。理解できますか。それとも、欲しいけど俺は働かないよという人がほとんどかな。これは、わかるかな。

(信徒H) はい、一応わかります。

(尊師) わかるね。

そうすると、例えばその人は車に対して価値を見いだしているわけだから、車のために働き、いいかな、そして車のためにローンを組み、あるいはローンを組まないで蓄え、車を買うわけです。はい、では、このとき心というものは何に集中していると思うかな。はい。

(信徒I) えっと、車を買うことに…。

(尊師) そうだね、車を買うこと、あるいは車を持った後の状態とか、いろんなものに心は集中しているわけです。つまり、この人にとっての宗教というものは、あるいはこの人にとっての生きがいというものは、車、ね、価値というものは車に置かれているわけだ、ね。

◉霊性の向上に向かうならば……

では、同じように、あなた方は霊性の向上に対して価値を見いだしているわけ

です。そうですね。あるいは、心の成熟というものに対して価値を見いだしているわけです。だからあなた方が、例えばそれに対して時間を集中して使うこと、あるいは、ね、ワークをすること、あるいはお布施をすること、このときに心というものは何に向かっていると思うかな。はい。

（信徒Ｊ）霊性の向上に向かっている。

（尊師）そうだね、霊性の向上に向かっていると。

ところがね、こういう人もいるわけだ。いや、わたしは実際の生活が大切ですと。そして、宗教というものは、ね、要するにアディションね、付録にすぎない、そう考えていらっしゃる方もいると。そういう人は、例えば、まあ好きなときにオウムに来、そして修行したいときに修行し、そして出たいイベントがあったら出、出たくないイベントがあったらお出にならないと。で、これもこれでいいと思うんだ。ただ、そのとき心は何に向かっているかというと、現世というものに一つ向かっているよね。わかるね、これは。どうかな。そして、余力で、真理というものに向かっているよね。わかるよね、これは。どうですか。どうかな。

まだ心が成熟してない人たちは、現世の付け足し、ほんのちょっとの付け足しとして宗教があると。そして例えば、ほんのちょっとの付け足しだから、いつでもその宗教が切れるんだね。そして、また違う宗教を徘徊すると。で、これは個人の生き方だから、生き方というのは言い方を換えれば価値だから、わたしは何も言うことができないし、それはそれでいいと思う。

しかしだよ、例えばわたしのつくり上げた体系というものは、前生の前生のそのまた前生からずっとつくり上げた体系であると。そして、その中には、ね、インド仏教の体系すべてが内在されているし、そしてインド・ヨーガの体系すべてが内在されていると、ね。そして、そのインド仏教の体系すべて、あるいはインド・ヨーガの体系すべてが内在されているものをだよ、ちょっとかじって、ね、そして、理解できると思うかな。どうですか、これは。

（信徒K）思いません。

（尊師）ね、理解できないよね、当然。

◉オウム真理教と他の宗教との違い

で、わたしが言いたいことはそこだ。オウム真理教と他の宗教の違いというものは、わたしは体現者であると。つまり、ね、すべての本質的なものを押さえてしまっていると、ね。だから例えば、これはね、仏典に書かれていることなんだけど、釈迦牟尼がわざわざ信徒のところにいらっしゃって、「あなた布施しなさい」とおっしゃるわけだよ。そうすると、例えばその信徒は、まあとにかくお釈迦様は偉い方だから布施すると、ね。

で、なぜ布施しなさいとおっしゃったかというと、例えばあるカルマがあって、そのカルマを消滅するために、布施をすることによって切れると思われたから布施しなさいとおっしゃる。

ところが日本でだよ、例えばわたしが、ね、「あなた布施しなさい」と言ったら、あの人は金取り主義だといわれてしまう。でも、これはあなた方は知っているかもしれないし、あるいは知らないかもしれないけど、例えば今ここにいるケイマ大師などは、わたしにすべて布施してしまった。一生懸命会社で、ね、残業

やりながら蓄えたものをすべてわたしに布施してしまったと。

そして、ね、普通だったら何十生も何百生もかかるような三つ目のヨーガ、マハー・ムドラー、これを成就なさったわけだよね。つまり、彼女の心がすべてグルに向いて、そしてすべて修行に向いたとき、三つ目のヨーガの成就が起きたわけだ。

これはミラレパ大師（現在は正悟師）も同じだね。例えばマルサンって知ってるよね、あなた方は。よくテレビで宣伝している会社に勤めていて、まあ新人社員としてはリーダー格をやっていて、将来有望だったと。それが半年で、それを放り投げて、ね、オウムに来たわけだ。そのとき、退職金も含めてすべてやっぱり布施してしまったと。

で、わたしはそれを当然だと考えている。それは、なぜならばあなた方が、例えばこの一生で積んだ悪業の量と、それからあなた方が積んだ善業の量を比較するならば悪業の量が多いから、わたしから見ると、あなた方に功徳を積ませなければならないと。そして、苦難を与えることによって悪業を消滅させてあげるこ

とが、輪廻転生の、ね、いい世界へつながるんだとわたしは確信を持っているから。それは、わたし自体が今生で歩いてきた道でもあると。

そして、わたしはそこに価値を見いだしているわけだね。そして、その苦難を乗り越えたわたしの高弟たちは成就なさり、精神が不動となり、ね、そしていかなる苦難にも微動だにしなくなる。そして、智性の向上がそこで生じるわけだね。で、これが、オウム真理教なんだよ。

そして、このオウム真理教で価値を見いだす人は、一生懸命お布施をすればいいと思うし、あるいは奉仕をすればいいと思うし、ね。あるいはオウム真理教は好きなんだけど、現世が好きであるという人は、ね、現世は現世として一生懸命頑張られて、そして、ね、自分の困ったときにオウム真理教をお使いになればいいと思う。

あるいはそうではなくて、ね、オウム真理教というのは現世的に、つまり、ね、例えば願望をかなえるということをしない。なぜ願望をかなえるということをしないかというと、そんなものは徳がつけば勝手に成立するとわたしたちは考えて

いるから、ね、そういうものに対して頓着しないと。そうじゃなくて、他の教団というのは、あなたはこの宗教に入ればこういう願望がかないますよと、たくさんうたっているよね。

で、オウム真理教はそれをやらないから、例えばお布施というのを投資と考えていらっしゃる方がいらっしゃるから、ね。だから、オウム真理教に投資をすることが嫌だとお考えになる方は、オウム真理教からお離れになることがよろしいと。そうわたしは考えているわけだ。そしてそれが、わたしの価値観であると、ね。

つまり、わたしたちは絶えず、ね、わたしもそうだし、大師もそうだし、あるいは信徒の方でも全力でやっている方はそうだけど、絶対的な真理というものを求めているると。ね。例えば、Hさん、ね、一生懸命修行なさって、ね、もう今Hさんなりの限界のお布施をなさって、ね、食べるのもやっとであると。こういう人に対しては、「どうぞいつでも本部に来て、いつでも食事をしてください」と、そう言うことができる、ね。なぜならば、彼女がオウム真理教というものに価値

を見いだしたから、ね、これはわたしたちの価値と合致したから、いつでも困ったときはおいでくださいと。

例えばこの中の方で、一生懸命功徳をお積みになって、ひょっとしたら、ある日突然出家のカルマが出てきて、ね、出家のカルマが出てきてだよ、ご飯が食べられなくなるかもしれない。そういう方には、「いつでもどうぞ。ご飯ぐらい食べさせてあげますよ。寝る場所ぐらい提供してあげますよ」と、それは言えると、ね。

◉三つの救済

つまり、この場というものは何かというと、三つの救済というものを考えているわけだよね。それは何かというと、第一は、ね、あなた方の霊性を向上させ、本当の意味での自由・幸福・歓喜というものを与えること、これが最高のわたしたちの救済だと考えている。

これは、輪廻転生、あなた方が生まれ変わるとき、ね、瞑想修行によって、当

然死の体験をさせ、そして次の転生で何に生まれ変わるか、あるいは過去世で何に生まれ変わっていたかを経験させて、ね、そして、絶対的な信を持たせ、ね、そして、未来生において高い世界へ生まれ変わらせるための救済、これをわたしたちは根本として置いています。

そして、ね、それに付属して二つの救済、それは、オウムというものは真理だから、真理に対して功徳を積むことによって、ね、現世的な喜びも増しますよと。

それから、もう一つは、今CSI（コスミック・サイエンス・インスティテュート）、あるいはね、アストラル・ホスピタルの計画があるわけだけど――これは、高い世界の医学というものを持ち込んで現代医学に組み入れていこうという動きがあるわけだけどね――そのアストラル・ホスピタルの計画。それによって、今まで病気で苦しんでいらっしゃる方の救済。しかし、このアストラル・ホスピタルというものはなかなか大変です。何が大変かというと、例えば、一つの病院をつくるにも一年、二年とかかると。で、今その準備をしています、ね。

で、この三つの柱、つまり、現世的な喜びと、精神的な向上を求めている人は

――これは天界に行く道だけどね――そういう道を歩けばよろしいと。そして、ね、本当に病で苦しんでいる人は、ね、条件としては真理を実践することによってその病から解放させてあげようと、ね。もちろん、ね、他の宗教と違って、単純に肉体的なプラーナを与えるだけではなくて、医学的に、あるいは今までいわれていないような医学理論・科学理論を用いて何とか病気を解決してあげようということで、わたしの弟子たちがね、研究に当たっていると。

そして、それともう一つは、その二つはあくまでも現世的なものであると。そうではなくて、今生で、ね、高い世界に成就したいと、例えば仏陀になりたいと、例えば、ね、神通を得て高い成就をしたいという人のために、そのための救済方法というものを展開していると。

で、この三つが、今のところオウムの三つの救済の柱であると。そしてそれが、今わたしやわたしの高弟たちが価値を見いだしているオウム真理教であると。で、これに対して、ね、本当に信を持ち、帰依をし、そして価値を見いだす人はだよ、あなた方の大切な時間を、ね、奉仕をしたり、あるいはお布施に費やして、ね、

そして功徳を積むこともよかろうと。

そうではなくて、ただ麻原の教義というものは生きる上においてプラスになるとお考えの人は、そういう生き方で、例えば入信はなさると。そして、現世的な生活をしてポア・セミナーにいらっしゃって、ね、いろんなものを学ばれると。それもよかろうと。

そうではなくて、「いや、オウムというのは、わたしたちに現世的なメリットを何一つ与えてくれない」とお考えの人は、オウムをお去りになってもよかろうと。そしてそれが、わたしは価値だと思うんだ。

◉結婚も同じく価値観によって

これは、結婚も同じだと思うんだね。どういうことかというと、例えば布団を三日間敷きっ放しと、掃除しないような女性は嫌だとお考えの方は離婚すればよかろうと。そうではなくて、例えば、布団は三日間敷きっ放しで、しかも掃除もしないと。しかし、心はすごく優しい子だと、ね、一緒にいると安らぐと。だか

ら、わたしはそれでいいんだという人は結婚生活を続ければよかろうと、ね。
あるいは、ね、お金をたくさん取ってくると。しかし、その夫は暴力を振るうと、あるいは傲慢であると、ね。しかし、お金をたくさん持ってくるから、結婚生活を続けようという奥さんは、ね、そのお金に価値を見いだしているわけだから、結婚生活を続ければよかろうと。
しかし、ね、逆に今度は、いいかな、お金はあまり持ってこない、生活は貧しいけども、心がすごく清らかであると、ね。そして、一緒にいるだけで安らぐと、ね。だから、現世的には貧しいけども、その人と一緒にいればわたしは幸福であると。それに価値を見いだす人は、ね、その人と結婚生活をすればよろしいと。あるいは、恋人関係を持てばよろしいと、ね。

◉自己の価値観にとらわれずに

で、大切なことはここなんだよ。こういうふうに、いろんな人たちがいると。いろんな価値観があると、ね。だから、あまり自己の価値観にとらわれてはいけ

ないよと、ね。そして、その価値観という言葉はだよ、言い方を換えれば観念なんだよと、ね。これがポイントです。
ところが、例えばだよ、小さいときから親に教育され、あるいは友人、ね――友人というのはその地域社会の友人だから、一つの観念的な傾向があります――の中に育っていると、男はこうでなければいけない、あるいは女はこうでなければいけないというのがあるわけだね。あるいは、人間というものはこうでなければいけないというのがあるわけだ。
ところが、例えばわたしがだよ、日本からインドに行ったと、あるいはエジプトへ行ったと、あるいはアメリカへ行って感じることは、この日本人の価値観と、それからインド人の価値観、あるいはエジプト人の価値観、あるいはアメリカ人の価値観というものが全く違うということだね。だから、例えば日本人の価値観というものが、外国には通用しない部分もたくさんあるんだよ。ね。
ところが、そうではなくて、自己の価値に没入していなければ、他の価値観をまずサーチして、「あっ、この人たちはこういう価値観の上に、つまり、こうい

う観念の上に生きているんだ」ということがわかるよね。どうかな、これは。わかるね。そうすると、相手をまず認めることができると。で、その上で、この国の人たちとは、あるいはこのジャンルの人たちとは付き合うことができるとか、わたしは付き合えないなということが決まってくるよね。

だから、あなた方は、いいかな、今日話したように、あまり固定的な価値を、ね——自分の中で価値観を見いだすのはいいけども、それを他人にあまり押し売りしてはいけないよと、ね。そして、他人の価値観をまず理解すると。そして、理解した上で、その価値観を認める認めないを決定してほしいと。そして、そうすることがあなた方の幸福につながると、ね。

それから、この価値観と付随してもう一ついえることはね、いいですか、思い込みもいけないよと。つまり、自分の価値観で相手を見てはいけないよと。例えばね、その夫婦問題の話に戻すと、ね、奥さんというのはすごく優しい人なんだねえ、やはり。現に五人の子供さんが、ね、そのきちんとしていらっしゃるご主人ではなくて、奥さんを尊敬しているんだよ。

ということは、おそらく、掃除をやっていないとか、そういうこともたまにはあるかもしれないけど、まあほとんどはちゃんとやっていらっしゃるんじゃないかと。それから子供のこと、子供の将来のことを本当は考えていらっしゃる人なんじゃないかなと、わたしは見ているんだね。だから、子供というものは純粋だから、やはり母親の、本当の意味での愛情というものを理解していらっしゃるんじゃないかと、ね。

そして、それだけ優しい奥さんだから、本当はご主人もいろいろ問題があっても別れられないんじゃないかなと。まあ、一回目にはそういうアドバイスをしてあげたわけだけども、それを聞いてくれなかったけどね。

ただね、それは先程言ったとおり、小さいときからの観念の組み立てがあるとね、相手を理解できなくなってしまう。そして思い込んでしまうんだ。これはこうあるべきだと。こうなければならないと。しかし、それは観念であると。そして、心を柔軟にして相手をじっと見つめるならば、相手のよさもわかるし、相手の欠点もわかろうと。今日の話はわかったかな。

◉医者の指導は観念の押しつけ？

じゃあ、この内容について質問があれば取ろう。はい。

（質問者A） 価値観についてでございますけれども、例えば食事についてでございますけれど、オウムでもいろいろ食事についてはいわれるとおり、例えばわたしなんか肉食はいけないと、あるいは魚もあまり食べない方がいいと、そういうふうに思っているわけでございますけれども、わたし一応仕事は医者をやっているものですから、患者さんに対してもできたらそういうふうな指導しているんですけれども、そういう指導はやっぱり観念の違いで、あまり押しつけない方がいいんでございましょうか。

（尊師） いや、それは医学的な見地から見てね、正しいと思われたら、いいんじゃないでしょうか。というのは、ここのオウムと同じですよね。つまり、患者さんというのはIさんの信者なんですよ。だから、Iさんを信じて来ているわけだから、Iさんの持っていらっしゃる最高の情報をあげると。で、それをなすなさないは、患者さんの自由というよりも、駄目だって言っても食べる人は食べるでしょ。

（質問者Ａ） はい。駄目だと言わないんですね。歯が三十二本ありますから、そのうち魚とか肉を食べる歯は四本、ということは、四×八＝三二で八分の一ですから、まあ三日に一回、魚、三日に一回お肉ぐらいだったらいいですけれども、それ以外はちょっとお控えになった方がいいんじゃないでしょうかというようにしておるんですけれども。

（尊師） うん。で、どうですか、患者さん、それを納得してお帰りになりますか。

（質問者Ａ） まあそういうと、一応納得して、まあできるだけでいいですけどそういうふうに努めてくださいというふうに申すんですけれども…。

（尊師） 十分だと思いますね、それは。というのは、Ｉさんのみんな信者さんですからね。でまあ、病気を治すために先生、先生といらっしゃっているわけですから、その人に、Ｉさんのお知りになっている最高の経験、あるいは知識を投入してあげることは、それは素晴らしいことだと思いますね。

（質問者Ａ） どうもありがとうございました。

（尊師） はい。

◉都会の女性と九州の女性

この中で、例えば男性でね、若者でもいいけども、都会に出たことのある人、例えば東京とか、大阪とか、どれぐらいいますか。ちょっと手を挙げてもらえますか。

じゃあ、かなりいらっしゃるんだ。で、その手を挙げた方にちょっとお聞きしたいんだけども、例えば女性に対する感覚というものが、九州とね、それから大阪、あるいは東京とでは違ったという経験をお持ちの方らっしゃいませんか。

（信徒L） それは、やっぱりあると思います。

（信徒M） 本質的には特に変わった感じは受けなかったんですが、言葉とか、そういうところではあります。

（信徒N） そうですね、わたし出身福岡なんですけど、東京に二年間ばかりおりまして、たまに福岡帰ってきますと、やはり違うなという感じがありますね。言葉ではちょっとうまく説明できませんけど。

（尊師） よくわかりますね、それは。

◉国が変わればもっと変わる

いいかな、今日の話、そしてこういうものの考え方、観念の崩壊、これがあなた方が求めている三つ目のジュニアーナ・ヨーガによって、あるいはマハー・ムドラーによって起きる現象なんだよ。だからこれは、今九州の信徒の方全体的にマハー・ムドラーをかけたんだと考えてよろしい。

というのは、あなた方の心の現われの中で、隠されている部分、あるいはまだ理解できていない部分というのがあるわけだね。それは例えば、狭い地域に入っていると、どうしてもその地域社会の影響を受けてしまうと。ところが、それが、たかだかこの狭い日本の中においても違うわけだね。まあ、わたしも出身は熊本だけども、実際に東京に行って、ね、全くものの考え方が別だなと感じました。

もうそれだけではなくて、今度は日本から離れて、インド、先程言ったとおり、エジプト、あるいはアメリカとね、中国と、四カ所わたしは行ったわけだけども、もうその国によって価値観というのは全く別なんだね。

ある国は、ね、男性よりも女性の方が崇拝されているんだよ。だから、「わた

しは威張りたい」という女性はぜひとも、これはね、外国に行くべきだね。で、ある国では平等と、ね。ある国では、逆に日本以上に女性が虐げられている、ね。日本でも、まあ特に九州は男尊女卑と一般的にいわれているけど、実際はね、その男尊女卑という言葉の裏に、夫あるいは男性をうまく働かせて女性は安穏としているというようなところが見受けられないこともないことはないんだけども、でもまあ表面的には、特に九州はそういうところがあるよね。

そして、これをわたしは悪いとも思わないし、いいとも思わないと。それは、その社会、社会の形成、あるいはそこにその女性が生まれた、男性が生まれたというのはカルマだから、ね、人というものはカルマによって平等だから、それはそれでいいと考えるわけだけども、しかし、ね、そのものの考え方だけではないよということは、絶えず理解しておいてほしいと。いいですか、これは。理解していただけましたか。

はい、では頑張って修行しましょう。

一九八八年九月二十五日　福岡支部において

◆第四話　真の修行の三つの条件

「義・法・詞と三蔵」

◉三つの条件――本当の意味での教え

真の修行には、三つの条件が必要である。特に仏教という名のもとの道には、三つの条件が必要である。

その三つの条件とは何かというと、まず第一は義、第二は法、第三は詞ということになる。

この義・法・詞とは何かというと、まず義というものは、人間が三悪趣の道を破り、そして人間、阿修羅、天、梵天界、光音天界、浄界、そして色究竟天をぶち抜いて空に入り、最終的にマハー・ニルヴァーナへと到達する道筋、そのとき

に起きるいろいろな科学的分析、これが義である。

そして、法とは何かと。これはダンマのことであり、つまり教え、何をなしてはならない、何をなせばよろしい、何は何であるという、それを分別によって——ここでいう分別とは、分析、論理的解析ということになるが——その分別によって解き明かした教えが存在するかということである。

そして、詞とは何かというと、これは詞章、例えば、大乗の菩薩になるために、「ホー、湖面に映る様々な幻影に引きずられ、輪廻の大海を浮沈する生き物たち。彼らすべてが絶対自由・絶対幸福なるマハーヤーナにて安住することができるよう、四無量心込めて大乗の発願をいたします」といったようなもの、あるいは「自己の苦しみを喜びとし、他の苦しみを自己の苦しみとする」、あるいは「オーム　アー　フーム　ヴァジラ　ナマ　シヴァ　ヤ……」といったね、このような、要するに魂を変えていくための、浄化していくための詞章が存在するかという、この三つの条件があって初めて真理の教え、あるいは仏教の教えということができる。

また、別の三つの条件がある。これは何かというと、論、そして経、そして律という三つの教えである。

この論というのは、一番目の義と同じ意味であって、つまり、例えば空無辺とはどういう境地である、例えば識無辺とはどういう境地である、例えば水遍とはどういう境地である、例えば火遍とはどういう境地であるといったような、あるいはどういう状態であるといったようなね、そういう論理的なバックボーン、これがしっかりしているかどうかと。

そして、経とは何かというと、これは一般的な教えで、例えば布施とは何であると。そして、布施にはどういう段階があると。あるいは、そうだね、何をなせば人は幸福になり、何をなさなければ人は幸福にならないかという、一般的な教えである。しかし、この教えにも、先程言ったとおり、分析的かつ合理的な論理的バックボーンが存在しなければならない。

そして、第三番目の律、これは戒律のことである。まあ在家信徒の場合は、オウム真理教でも十の戒めを説いているが、実際には三百、四百といった戒律が存

在している。

そして、この論・経・律、この三つが存在して初めて一つの教えということができる。この三つのどれか一つでも欠けるならば、それは本当の意味での教えということはできない。

◉完全な原始仏教

それはなぜであろうかと。例えば、経、つまりお経の教えがあると。そのお経を読むと。読んで、人間はどのように変化していくのかと。いい方向に変化するのかと。あるいは悪い方向に変化するのかと。それは実際に、その一つ一つの道しるべというものが記されていなければ、理解できない。

例えば、日本に『法華経』が存在し、あるいは『維摩経』が存在し、あるいは阿弥陀仏における『浄土三部経』が存在していると。しかし、このようなものはすべて経の部分に属すると。つまり、これは不完全な経ということができる。もし、『法華経』に律や、あるいは論、あるいは義、あるいは詞といったようなも

のが存在するならば、その経というものは完璧ということができる。
日本でいわれている大乗仏教というものは、教え優位である。そして、その教えを、まあ例えば、一日のうち平均するとね、五分間、十分間聴くと。で、それで満足すると。しかし、残りの二十三時間五十五分、あるいは二十三時間五十分というものは、身・口・意における悪業をなすと。当然、これは悪趣へ至る、三悪趣へ至る道をその魂は歩くことになる。
つまり、この論、あるいは義というものは、チェック機能なんだね。つまり、自分のなしている修行が神々に至る道だろうかと、あるいは仏陀に至る道だろうかというチェック機能、これが論であり、あるいは義であるということができる。そして、律は、道筋を外れないためのガードレールということになろう。そして詞は、わたしたちをこの人間からマハー・ニルヴァーナへと届けてくれる船、乗り物ということになろう。まあ、今では船というよりも、戦闘機、あるいはロケットといった方がいいかもしれない。
つまり、原始仏教において、きちんとした教えというものが存在していたとい

うことを表わしているわけだね。なぜならば、原始仏教においては、論、そして経、そして律というものがしっかりしている。次に、仏陀釈迦牟尼の高弟、ウッパラヴァンナー、ヤソーダラー、ケーマーの詩などを読むと、きちんと義・法・詞という三つの教えが出てくるからである。

◉預流からマハー・ニルヴァーナへ

では、今ここにいるあなた方はどうなのかと、ね。当然あなた方も、この義・法・詞という三つを持っているはずである。あるいは、論・経・律という三つの実践的修行体系というものを持っているはずである。ということは、あなた方は在家であるにもかかわらず、しっかりと預流(よる)の道に入り、そして等覚(とうかく)、マハー・ニルヴァーナへと至る道筋を歩く、既にパスポートを持っているということになる。

例えば、一つ例を挙げよう。オウムにマハー・ムドラーという教えがある。この教えは何かというと、これは経ではなくて論に属する。それはなぜかというと、

このような状態のときこういう現象が起き、その現象によって心はこのように変化すると、ね。そして、例えば、色と空が同一の状態が存在するならば、その人はマハー・ムドラーの達成であると。これは論である。

しかし例えば、オウム真理教の教えの中で、南伝から例えば引用している「預流相応」、あるいは「真理相応」といったような教えは、これは経に属します。あるいは、先程言った十戒の経――まあ、これはまだあまり経典に出てこないけども、徐々に出していくつもりでいますが――そのようなものについては、それは律に属します。

では、この三つをどのように使ったらいいのかと。まず、人生の疑問に対して答えるもの、それは経である、あるいは法であるということができる。そして、あなが方が日々実践しなければならないものは何かというと、それは詞章であり、そして身・口・意の善行であると。

そして、あなた方の、今どのような進み方をしているかをチェックするもの、これは何かといったら、それは義であり論であると。それについては、例えばマ

ハー・ケイマ正大師の体験、マハー・マーヤ正悟師（現在のヤソーダラー正大師）の体験、あるいはプンナ・マンターニプッタ正悟師の体験等に載っているように、心のプロセス、あるいは霊的プロセスといったものがオウム真理教では明解になっているから、それを見て、自分は今どのプロセスなんだなと。これは論に属します。

ただ、まだ教団として動き出して六年にしかならない教団であるから、その体験が少ない。それについては、例えば『南伝大蔵経』のアビダルマの部分にね、詳しく載っているから、そこらへんも、もう少し経ったらあなた方に提供していきたいとは考えています。

◉心を透明に――知性の向上

よく、オウム真理教の教えは難しいといわれます。しかしそれは、難しくて当然であると。なぜならば、地獄、餓鬼、動物を破り、そして人間、阿修羅、天をぶち抜き、色界（しきかい）に入り、無色界に到達し、最終的にマハー・ニルヴァーナへと到

達する道を説くわけだから、知性（智性）という意味においても、人間の何十倍、何百倍という高い知的状態でなければ、当然その状態をキープすることはできないし、また、当然人間より高い世界の教えであるから、論理的に難しいと。また、その世界の教えであるから、当然教義内容も豊富であるということができる。

よくわたしは新聞でこういう叩かれ方をする。オウム真理教の教えは、現世を否定した教えであると。であるにかかわらず、エリートを重用していると。しかし、それはそうではなくて、まあ前生の弟子たちが、前生の功徳によって今生エリートとして生まれ変わり、そして現実生活を送ったと。たまたまエリートであったにすぎないと。まあ言い方を換えれば、この現実的な科学、あるいは学問といったようなものは遊び程度で通過できなければ、最終解脱はできないということになる。

じゃあ、わたしは頭が悪いから駄目なのかと。そういうことはない。ここにいるわたしも、まああんまり頭のいい方ではないけども、それは先程言った詞によって、つまり詞章によって、一生懸命修行することによって、雑念を払い、心のピュ

アな部分を増大させ、そして知的向上を得た一人であるということがいえます。

そして、この道筋は、あくまでも三乗、ヒナヤーナ、マハーヤーナ、タントラ・ヴァジラヤーナといった三つの土台を背景として構成されている道筋です。

◉二つの布施

人が布施を行なう場合、その対象は二通りに分けることができます。

その第一のタイプは、まず邪見解を抱き、邪語をしゃべり、邪思惟をなし、邪生活をなし、そして——これは、邪といったらちょっと聞きづらいかね。正しくない生活にしようかね——正しくない生活をなし、そして正しくない修行をし、正しくない記憶修習を行ない、そして正しくない三昧に入ると。そして、正しくない生活をしていると。こういう者に対する供養というものは、こういう者に対する布施というものは、当然リバウンドですから、しっかりとそのカルマを受け、そのカルマのとおりの清算を受けることになります。

逆に、正しい見解を有し、正しい言葉を語り、正しい思索をなし、そして正し

い日々の生活、正しい人生の目標というかね、正しい生き方をし、そして正しい努力をなし、正しい記憶修習をなし、そして正しい三昧に入る者に対する供養をなす者は、当然その道を歩くことになります。

では、その前者と後者との違いはどのような形で現われてくるのだろうかと。わたしたちは、必ず死にます。それはあなた方も知ってのとおり、どんな人でも、天皇であろうと、あるいは総理大臣であろうと、あるいは三菱の社長であろうと、あるいは野球選手の名プレイヤーであろうとも、あるいは有名なタレントであろうとも、いかなる生き物、いかなる魂も必ず死にます。

それはなぜかというと、この三つのグナ、ラジャス、タマス、サットヴァというものが転変するからです。この飾りというものは必ず変化し、老い、そして朽ちます。その朽ちる状態を死と呼んでいます。その死、その死に対してどのようなアプローチをなし、生まれる前、生まれ、死、死後というものを通して、あなた方に絶対的な境地を与えられることができるのかどうかということこそ、本当の意味での、この聖なる八支の道を歩いている魂であるかどうかの境目というこ

とになるでしょう。

例えば、日本の大乗仏教は、病気をした、病気が治った、よかったと。例えば、拝んだ、大学に通った、よかったと。例えば、拝んだ、金持ちになった、よかったという教えを説いています。しかし、このようなものはすべて無常のカテゴリーに属します。

例えば、お金持ちであれば、死ぬときにそれに執着し、苦しまなければならないと。例えば、恋人が多ければ、それに執着し、そして死ぬときに苦しまなければならないと。例えば、妻が美しければ、それに執着し、死ぬときに苦しまなければならない。あるいは、妻に恋人ができれば、同じように苦しまなければならないと。あるいは、高位高官に昇り、権力を駆使し、わがままな人生を送れば、その権力から切り離される死というものは、当然その人にとってものすごい悲しみとなるでしょう。

そして、その悲しみ、その苦しみ、これについて答えないで、その権力を増大させる、あるいはモテモテの人生を送らせる、あるいは大金持ちにさせるという

教えが、果たして人生を通して正しい教えなのかどうかを考えなければならない。持てば持つほど、苦しみが増大します。もちろん、貧しくなれというわけではない。

◉豊かな五蘊の形成

すべては——このわたしたちの五蘊（ごうん）、色（しき）・受（じゅ）・想（そう）・行（ぎょう）・識（しき）というものは——借金によって形成されるといえます。なぜならば、この人間の生を終えると、必ずといっていいほど三悪趣へ生まれ変わると。それは何かというと、わたしたちがこの生きている間に積んでいる口のカルマ、身のカルマ、心のカルマというものは、悪趣へ向かう、つまり預金を使い果たし、どんどん借金を積み重ねて生きているような状態を指します。

そうではなくて、この五蘊を浄化し尽くすためには、日々の生活において、できるだけ徳を使わず、そして大きな徳を積むと。そして、先程言った、義・法・詞、論・経・律といった三つの条件をしっかりととらえ、今自分自身がどの部分

を歩き、何をなしたら幸福になるのか、何をなさなければ幸福にならないのかと、絶対的な幸福というものはどのような道を歩いたらいいのかということをしっかりと見つめ、かみ締め、そして歩くということを日々心がけない限り、わたしたちから本当の意味での幸福というものは去ってしまいます。

それはちょうど、ある人が一億円借金ができる状態にあったとして、その借金を知らず知らずのうちに使い果たし、気づいたときにはもう借り入れのできない状態になっている状態。このときには、借金取りしか来ませんし、当然食べられない、生活できないといった、本当の意味での苦しみが待っているでしょう。そして、それを仏教では、三つの悪趣、地獄・動物・餓鬼といっています。

この状態になる前の状態、つまり、一千万借金したと。じゃあ、次の一千万を借金しようと。それを元金にして一生懸命働き、返すと。そして、借金をゼロにした段階で二度と借金をせず、ね、少しずつ少しずつ蓄えると。そして、その蓄えた預金の利息で生活できるようになる人生を歩く。これこそが、真の聖者の、そして真の聖人のね、正しい生き方であるといわざるを得ません。

実はこれは、わたしは今から二、三年前からずっと説いていることだけど、おそらく来月号か再来月号の『マハーヤーナ』のお釈迦様のお経にも同じ教えがあるんだということを紹介できると思います。

◉天へ至る道——高い智性と神通力

人は死ぬ。必ず死ぬ。絶対死ぬ。死は避けらんない。そして、その死を超えるためには人間を超えた五蘊を形成するしかないんだということを認識してください。

例えば、わたしたちの肉親が死ぬとき、その人の状態が例えば老人性痴呆症であると。この老人性痴呆症で、天界へ生まれ変わることができるだろうかと考えたら、当然それはできない。なぜならば、天は人間を超え、そして憤怒天を超えた高い智性の持ち主が転生するところ。そして、神秘的な力、神通を持った者が転生するところだからです。つまり、老人性痴呆症は、動物の世界に生まれ変わるということを明らかに表わした、死の前兆だといわざるを得ません。

では次に、死ぬ前に、食べたい食べたいと言いながら死んでいくガンの患者はどうだろうかと。もう皆さんわかったと思うが、これは来世、餓鬼の世界へ生まれ変わるための前兆としてそういう現象が現われているんだということ。ということは、この人が食べなくても平気な状態をつくるまで、その人は餓鬼の世界へ生まれ変わる条件が消えていないということを表わしています。

では、全身痛みの状態で、痛い痛いと言いながら死んでいく魂はどうでしょうか。これは当然、地獄の条件を備えたまま転生するわけですから、間違いなく地獄へと落ちていくでしょう。

そのような目で、現代の死というものを見つめた場合、果たして、人間、阿修羅、天界という、この欲界の上の三つへ生まれ変わる魂があるんだろうかといったら、当然ほとんど生まれ変わることができないといえます。

わたしは、カルマというものについて、一つあなた方に言っておきたいことがある。それは今から数年前に読んだ新聞だが、アフリカで食べられないで死んでいく魂がいると。で、お父さんが子供に食べさせ、自分は食べられないで、それ

を見ながら、笑いながら死んでいくと。おそらくこの魂は、餓鬼のカルマを切っていますから、来世人間に生まれ変わるんじゃないかと思います。なぜならば、自分が食べるということより、その食べ物を子供に食べさせて、自分はそれを見てにこやかにね、笑いながら死んでいくと。つまり、執着というものが優位で死んでいく。この状態で転生するからです。

あなた方も、死ぬ瞬間まで、少なくとも精神レベルを高め、智性を向上させ、そして神秘的な力をおつけになり、憤怒天、そして戯忘天へと転生することを祈り、今日の説法を終わりたいと思います。

一九九〇年十二月八日　京都支部において

◆第五話　新しい三つのコース

「より充実した修行のために」

◎現実に即したシステム変更

実は、今回の緊急メッセージの内容は、システム変更についての皆さんに対するお話をしたいということで、今回急きょ、こういうセミナーを開くことになりました。

今までオウム真理教は、皆さんも知ってのとおり、シッディ・コース、ポア・コース、そしてヨーガタントラ・コースという三つのコースに分類されていたわけだけど、このコース対応というのが、あまり現実に即していないと。よって、マハーヤーナ・コース、タントラ・ヴァジラヤーナ・コース、そしてテーラヴァー

ダ・コースの三つに分類すると、新たにね。
で、まあ、このマハーヤーナ・コースというのは、今までのポア・コースをより充実させた形で、まあ自宅の修行、道場に来れない人たちの自宅の修行というものにウエイトを置いた修行体系を検討しました。これについては、今年の十月ぐらいから、実際、原案が上がり、そして、それに対していろいろ検討を加えてたわけだけど、だいたい何とか形にすることができるようになったので、このようにしました。
で、このマハーヤーナ・コースというのは、自宅で日々の修行――この日々の修行というのは、要するに、決意を中心とした経典を読唱することによって、よりいっそう記憶修習を充実させようということが狙いです。
そして次に、タントラ・ヴァジラヤーナ・コースというのは、これはまさに最も早く解脱・悟りを開くための道という意味において、要するに、基礎教学システムから始まって、シャクティーパット、イニシエーション等を受け、そして個々の瞑想、あるいは日々の活動を行なうことによって、早く解脱するためのコース

です。

そして、もう一つは、テーラヴァーダ・コースと。このテーラヴァーダ・コースは、まさに原始仏典、『南伝大蔵経』を中心とした原始仏典の研究、そしてそれに対するわたしの説法というものを中心として、生き方の規範を、その南伝の教えに属する形で進めていくというコースです。

◉南伝仏教と北伝仏教の特徴

もちろん、この南伝（テーラヴァーダ）と北伝（タントラ・ヴァジラヤーナ）の考え方には、全く対比する部分があるわけだけど、その対比する内容は、あくまでもあるポイントにおいて合致していると。

では、そのあるポイントとは何かというと、それは煩悩の滅尽であると。ただ、その煩悩を滅尽する場合の二つの選択の仕方があると。一つは、煩悩を昇華すると。つまり、煩悩を解放するという形で昇華し解脱に至ると。これは北伝の方法であると。それからもう一つは、煩悩を完全に遮断してしまうと。つまり、遮断

というのは捨て断つの方ではなくて、完全にカットすると、ね、これによって完全に止めてしまう方法。これが、南伝のテーラヴァーダ的な方法であると。これは両方とも、まあ長所と欠点を有していると。

まず、テーラヴァーダの教えというのは、完全に出家修行を行なわなければ、最終地点である解脱・悟りに到達することは不可能であると。しかし、北伝の教えにおいて、解脱・悟りを行なうことはできると。しかし、その場合大変危険な要素をいろいろ含んでいるから、まあそのためにイニシエーション、その他の高度な技法が用いられていると。逆に南伝の場合、その教えそのものが、俗にいうところの道徳的範疇から出発しているから、大変わかりやすく、疑問がなく、どんどん進めていくことができると。

しかし、北伝の場合は、その奥儀の部分にはかなり非道徳的な部分も含まれているから――まあこれは、天界においての法則という意味においては矛盾がないわけだけど、現実の観念的な見方からすれば批判的な内容も含まれているから――この場合、観念というものが邪魔し、なかなか修行が進みづらい部分が出てく

る可能性があると。

あるいは、煩悩を肯定するということと、煩悩を解放するということのセンターラインがなかなか見分けづらいと。どこからどこまでを煩悩肯定と見るのかというと、すごく難しいと。よって、ここらへんは高度なグルのテクニックによって成就していく道であるから、大変難しいと。で、まあ、この二つをね、このテーラヴァーダ、それからタントラ・ヴァジラヤーナと、二つのコースに分けて説き明かしていこうじゃないかと考えています。

◉史上の宝、三宝を活用せよ

で、これらのコース変更がなぜ行なわれたかというと、やっと基本的な教義が、古い信徒さんについては根づいてきているから、例えば、今度の狂気の集中修行あたりでは、クッジュ・タラーさんあたりは、クンダリニー・ヨーガを成就するだろうし、あと何名かは、おそらくラージャ・ヨーガの成就にも至るだろうと。ただ、それらは、あくまでもその人たちが日々、この現実生活において苦しみと

※今回の狂気の集中修行において、クッジュ・タラーさんはクンダリニー・ヨーガを成就され、ラージャ・ヨーガの成就者も四名誕生しました。

いうものを経験し、悪戦苦闘しながらオウム真理教の活動、実践を行なってきたからに他ならないと。

で、こういう形態というのは、もともと真理の法則というのはね、君たちすべてのために存在すると。史上の宝であると。この三宝、三つの大いなる宝、真理勝者と、そして真理と、そして真理を実践している向煩悩滅尽多学男女という、この三つの宝の存在そのものが、すべての衆生をいかに幸福にするのか、その幸福というのは、ただ単に物質的なものを得て幸福になる、豊かになって幸福になるという意味ではなくて、本当にわたしたちが生死を通して絶対的な幸福な状態にどのようにしたらなれるのかということがポイントとなって、この三宝というのは存在しているわけです。

で、その三宝の活用の仕方というか、そこらへんをもう少し、コースを変更することによって、皆さんにより実践しやすい方向に導き入れること、これがわたしの役割であると考え、このコース変更に踏み切ったわけです。

◉頭上に開かれた解脱の道

そして、このコース変更のもう一つの狙いは何かというと、それは、皆さんにね、よりいっそう実践してほしいと。真理を実践してほしいと。絶対の真理を実践してほしいと。そして、この絶対の真理を実践することによって、皆さんが今生、来世を通して、そして今生、来世の二世の願ではなく、永遠に皆さんが本当の意味で幸福になる道を歩いてほしいと。そのためには、今の教えの流れでは不十分であると考えたからです。

もう既に、その一部が導入されていて、例えば基礎瞑想セミナーの後、例えば、グルヨーガ・マイトレーヤのセミナーとか、あるいは小乗のツァンダリーのセミナーといったようなものも入り出していると。これは、何を記憶修習すればどのような結果になるのかという問題と、大きくかかわってきます。

例えば、例を挙げるならば、アーサナ、プラーナーヤーマ等を行なえば、大変肉体的にもスリムになり、ナーディーの通りも良くなり、心も落ち着き、そして本当に平安の境地を得ることができると。これは事実である。

しかし大いなる徳を有した、例えば三千大千世界。つまり、十億宇宙の中の王として君臨する、つまり、真理勝者となることはそれではできないと。あくまで個人の、そういう至福の世界へ没入することはできるが、それ以上のものは存在しないと。で、やはり、それ以上のものに到達するためにはどうしなければならないのかというと、それはしっかり経典を学び、経典を記憶修習すると。で、その要約的な、しかも、より早く、この七万二千本あるナーディーを浄化し尽くす瞑想法こそが、例えばグルヨーガ・マイトレーヤであり、あるいは小乗のツァンダリーであり、あるいはグルヨーガであり、大乗のツァンダリーなのであると。で、これらの瞑想法、これらをね、実際にタントラ・ヴァジラヤーナ・コースの中に組み込んでいこうと。そして、皆さんが、本当に自分のステージを固めていく、その道を指し示そうと考えたわけです。

例えば、先程言ったクッジュ・タラーさんなどは、もう既に小乗のツァンダリーを受けていますから、まあ今回の狂気の集中修行は特別なメニューとしてね、例えば小乗のツァンダリーを中心としたメニューになると思うけど、これを一生懸

命令のうちから準備しておくと。こういうような形で、既に、もう自分の眼前にというよりも、頭上に開かれた解脱の道というものを、しっかりと歩むようにしなければならないと。

◉高い解脱・悟りへ導く二本の柱

なぜ、わたしがこういうことをいっているかというと、まあ要するに今まで、オウム真理教のクンダリニー・ヨーガの成就者といわれるタイプがいろいろと登場したわけだが、どうも救済者向き、個人の寂静向き、あるいはそうではなくて、単に神秘的な経験をして終わるという、いろんなタイプが存在していると。

で、このいろんなタイプを分析した場合、やはり、イニシエーションを受けて、そしてしっかりとそのイニシエーションを達成した者――まあ例えば、東京本部の今本部長をやっているアーナンダ（師）とかはまさにそうで、彼は小乗のツァンダリーを、まあ本人いわく何千時間も回しているという話だけど――こういうね、基本的なイニシエーション、基本的な瞑想を確定させていく方が早いと。

まあ、実は今回クンダリニー・ヨーガの成就に向けて四十人の弟子が、今修行に入っているわけだが、もう既に、今クンダリニー・ヨーガの経験を達成している者が、そうだね、約半分ぐらいいるけども、彼らはまだ成就者としては断定されていない。しかし、彼らの体験そのものは成就者と同じものであり、そして彼らが使っている技術は何かというと、小乗のツァンダリーであると。

で、これらのね、しっかりした土台の瞑想を行ないつつ、そして日々の寂静の瞑想、この寂静の瞑想というのは、『真理』に説かれている『南伝大蔵経』、あるいは『仏典研究』等に出てくる――この『仏典研究』というのは、テーラヴァーダの基本的な教材となるであろう、ちょっと難しい『南伝大蔵経』の教えと解釈、それからわたしの説法というセットの出版物を今考えているわけだけど――これらの内容をしっかりと記憶修習、記憶実践することによって、寂静の瞑想、そしてそれと同時に、しっかりと仏陀になっていくための、ナーディーを浄化するための瞑想、この二本の柱をしっかり行なうならば、今生で相当に高い解脱、相当に高い悟りを開くことができるはずである。

◉残された時間はあとわずか

実はね、今から、そうだね、約二週間ぐらい前かな、国連でシオニズム運動を、要するに、それは正しいという採択が下りました。これは国連で下ったわけだけども、これは何かというと、ユダヤの民はイスラエルへ帰ることができると、それは約束されたものであるという採択です。

ところで、ここで一つ問題があるのは、この予言は何を意味しているのかというと、ハルマゲドンに、まあ要するに偽予言者等を召集し、そして戦争を始めるという「ヨハネの黙示録」の預言の前段階であるとわたしは考えています。したがって、おそらく第三次世界大戦は予定どおりくるであろうと。しかし、そのくるまでの期間、まあそれは本当に九九年なのか、あるいは二〇〇一年なのか、あるいはそれよりもっと早くなるのかは別にして、それまでの間に、あなた方が一人一人が自己を確立し、そしてどのような状況であろうとも自分の絶対的な境地というものを確定するならば、この外側の問題は大した問題ではない。

例えば、あなた方がその瞬間的なエネルギーによって、この肉体を捨てなけれ

ばならないとしても、それはあなた方の、例えばグルヨーガ・マイトレーヤの特別な瞑想法とか、あるいは『南伝大蔵経』の教義を理解することにより、しっかりとそのとき心を静め、自分のカルマを見つめ、転生を決めるとかいう、いろんな作業によってね、高い世界へ必ず生まれ変わることができるはずである。

よって、そうなるために、今日この瞬間から、徹底的に、よりいっそう激しい修行をしていただきたいと思います。

一九九一年十二月二十九日　新東京本部において

※オウム真理教では、本来の意味を正確に表わしていない既製の仏教用語は用いず、パーリ語原典を忠実に翻訳し、吟味した結果、決定した訳語を使っています。以下に、代表的な言葉の対比表を掲げますので参照してください。また、仏教・ヨーガの言語対比表も参考までに掲載しました。

◆言語対比表

欲界→愛欲界
無間地獄→超期間激苦地獄
叫喚地獄→号叫激苦地獄
鉢特摩地獄→紅蓮華のような状態になる激苦地獄
阿修羅→不飲酒天
憤怒天→意識堕落天
戯忘天→戯れ堕落天
地居天→地上愛欲神天
四天王衆天→四大王天
持国天→堅固王国天
増長天→成長天
広目天→統治変化自在天空天
毘沙門天、多聞天→守庶民外傷天
夜叉→人食い鬼神
忉利天→三十三天
帝釈天→有能神
夜摩天→支配流転双生児天
閻魔王→支配流転双生児王
兜率天→除冷淡天
楽変化天、化楽天→創造満足天

他化自在天→為他神以神通創造欲望満足
従事天
悪魔→破滅天
色界→形状界
梵天→神聖天
梵衆天→神聖衆愛欲神天
梵輔天→神聖臣天
大梵天→大神聖天
浄天→美天
遍浄天→総美愛欲本質神天
広果天→偉大果報愛欲本質神天
浄居天→清潔居住天
無煩天→超空間愛欲神天
無熱天→超燃焼愛欲神天

善現天→善安楽愛欲神天
善見天→善現象愛欲神天
色究竟天→超越童子愛欲本質神天
無色界→非形状界
空無辺処→空間無辺境
識無辺処→識別無辺境
無所有処→無所有境
非想非非想処→非認知非非認知境
想受滅→認知経験滅尽

須弥山→完全無欠山
東勝身洲→東の高貴なる身体を得る大陸
南贍部洲、閻浮提→南のバラリンゴの大陸
西牛貨洲→西の願いがかなう牛の大陸
北倶盧洲→北の悪しき音の大陸

成劫→再生期
住劫→継続期
壊劫→還元期

釈迦牟尼→サキャ神賢
如来→真理勝者
応供→供養値魂
正等覚→最上正覚者
明行足→智徳成就者

善逝→最上善逝
世間解→世間解（変更なし）
無上士→無上士（変更なし）
調御丈夫→丈夫調御者
天人師→天人師（変更なし）
仏陀→覚者
世尊→世尊（変更なし）

菩薩→到達真智運命魂
比丘→向煩悩滅尽多学男
比丘尼→向煩悩滅尽多学女
優婆塞→帰依信男
優婆夷→帰依信女
僧伽→出家教団
長老→高弟

声聞→多学の弟子
沙門→出家修行者
沙弥→少年出家者
遊行者→托鉢修行者
バラモン→祭司
クシャトリヤ→武人
ヴァイシャ→庶民
シュードラ→奴隷
四双八輩→四対の人々‐八つの宗教的特性を持つ人々
預流→真理の流れに入ること
一来→（愛欲界に）一度だけ再生すること
不還→不還（変更なし）
阿羅漢→供養値魂
四預流支→四つの真理の流れに入る段階
四聖諦→四つの絶対的真理
苦聖諦→苦しみの絶対的真理
集聖諦→苦しみの生起の絶対的真理
滅聖諦→苦しみの滅尽の絶対的真理
道聖諦→苦しみの滅尽に至る方法の絶対的真理

四念処→四つの記憶修習述

四正断、四正勤→四つの正しい努力
断断→現在悪業断
律儀断→未来悪業断
修断→現在善業勤
随護断→未来善業勤

四如意足→四つの如意の基礎
欲如意足→決意如意の基礎
精進如意足→精進如意の基礎
心如意足→思念如意の基礎
観如意足→観慧如意の基礎

五根→五つの潜在性
信根→信の潜在性
精進根→精進の潜在性
念根→記憶修習の潜在性
定根→サマディの潜在性
慧根→智慧の潜在性

五力→五つの能力
信力→信の能力
精進力→精進の能力
念力→記憶修習の能力
定力→サマディの能力
慧力→智慧の能力

言語対比表

七覚支→七つの覚醒段階
念覚支→記憶修習覚醒段階
択法覚支→検討覚醒段階
精進覚支→精進覚醒段階
喜覚支→喜覚醒段階
軽安覚支→静寂覚醒段階
定覚支→サマディ覚醒段階
捨覚支→無頓着覚醒段階

八正道→聖なる八段階の道
正見→正見解
正思惟→正思惟（変更なし）
正語→正語（変更なし）
正業→正行為
正命→正生活
正精進→正奮闘
正念→正記憶修習
正定→正サマディ

三苦→三つの苦しみの本質
苦苦→苦しみの苦しみの本質
行苦→悪い構成要素の苦しみの本質
壊苦→悪化の苦しみの本質

三受→三つの感覚
楽受→楽の感覚
苦受→苦しみの感覚
不苦不楽受→不苦不楽の感覚

四無量心
慈→聖慈愛
悲→聖哀れみ
喜→聖称賛
捨→聖無頓着

五取蘊→五つのとらわれの集積
色取蘊→形状-容姿のとらわれの集積
受取蘊→感覚のとらわれの集積
想取蘊→表象のとらわれの集積
行取蘊→経験の構成のとらわれの集積
識取蘊→識別のとらわれの集積

五蓋→五つの障害
貪欲蓋→愛欲の衝動による障害
瞋恚蓋→害心による障害
惛眠蓋→頑固と愚鈍による障害
掉挙蓋→興奮と後悔による障害
疑蓋→疑念による障害

五妙欲→五つの愛欲の構成部分
色→形状・容姿
声→声（変更なし）
香→香り
味→味（変更なし）
触→接触

五下分結→五つの下位に結びつけるきずな
有身見→有身謬見
疑→疑念
戒禁取→戒誓のとらわれ
貪欲→愛欲の衝動
瞋恚→害心

五上分結→五つの上位に結びつけるきずな
色貪→形状愛著
無色貪→非形状愛著
慢→慢（変更なし）
掉挙→興奮
無明→非神秘力

八解脱→八つの離解脱
八勝処→八つの克服境
十遍処→十全境
十波羅蜜→十の徹底

十二縁起の法→十二の条件生起の段階
無明→非神秘力
行→経験の構成
識→識別
名色→心の要素-形状-容姿
六処→六つの感覚要素と対象
触→接触
受→感覚
愛→渇愛
取→とらわれ

有→生存
生→出生
苦→苦しみ
信→信（変更なし）
悦→歓喜
喜→喜（変更なし）
軽安→静寂
楽→楽（変更なし）
三昧→サマディ
如実知見→如実精通見解
遠離→現世否定
離貪→離愛著
解脱→離解脱

言語対比表

涅槃→煩悩破壊
般涅槃→完全煩悩破壊
中般涅槃→中完全煩悩破壊
生般涅槃→減少完全煩悩破壊
無行般涅槃→形状界にて経験の構成がなく功徳の果報を受けつつある完全煩悩破壊
有行般涅槃→形状界にて経験の構成があり真理の実践による完全煩悩破壊
一種者→一種者（変更なし）
家家者→徳の高い家から家へと転生する者
極七返→最高七回流転者

正智→正精通
正解脱→正離解脱
心解脱→心の離解脱
慧解脱→智慧の離解脱
殺生→殺生（変更なし）
偸盗→与えられないものを強奪すること
邪淫→愛欲における邪悪な行為
妄語→嘘
綺語→軽薄語
悪口→悪口（変更なし）
両舌→中傷
貪→愛著
瞋→邪悪心
癡→迷妄

愁→不運な出来事
悲→悲嘆
苦→苦しみ
憂→激痛
悩→悩み

五趣→五つの方向
善趣→幸福に向かうこと
悪趣→悲痛に向かうこと

カルマ→要素の蓄積
法→法則
梵行→神聖行
布薩→戒誓行
波羅提木叉→約束維持解放
頭陀→断修行障礙
袈裟衣→赤っぽい黄色の衣
衆生→生命体
四大種→四大元素
本生経→輪廻転生談

◆仏教・ヨーガ　言語対比表

愛欲界（あいよくかい）―現象界（げんしょうかい）
形状界（けいじょうかい）―アストラル世界（せかい）
非形状界（ひけいじょうかい）―コーザル世界（せかい）
愛著（あいじゃく）―サットヴァ
邪悪心（じゃあくしん）―ラジャス
迷妄（めいもう）―タマス

仏陀の智慧が光を放ち混迷の時代を照射する

INITIATION

イニシエーション

麻原彰晃著

この名著はすべてを語っていた！



武田　健さん（東京都／学生）
「末法の時代は終わった」ということを確実に感じさせる本である。

松岡謙次さん（愛媛県／警備員）
読めば読むほど、「頑張ろう、やるぞ」と思わせるような素晴らしい本です。

山本　勇さん（石川県／会社員）
解脱するまでの心の状態が、多くの例を挙げてわかりやすく書いてある。

大森惠子さん（山口県／店員）
他の書では得られない絶対なる真理に触れることができた。

武田葉子さん（熊本県／主婦）
「人間として最高の、最終の目的は何か」ということがはっきり示されています。

本間智加子さん（東京都／経理事務）
宗教に対する偏見がいっぺんに吹き飛んでしまいました。

「解脱」「悟り」のプロセスを細やかに説き明かし、
最高の修行法を伝授する。
本来、選ばれた弟子にのみ明かされる秘儀――
ヨーガ・仏教の奥儀を極めた修行の正しさは、
誕生した三五〇名の解脱者が証明する。
さらに、自民党の大勝と大敗、円高の進行、
農作物輸入自由化など、
今日の世界と日本の動向を正確に予言している、
驚くべき記述の数々！

◎「解脱」「悟り」の真実／現代の仏陀麻原彰晃が最高の修行法を公開。
◎タントラ・イニシエーションの全貌／チベット密教・ゲールク派とオウムの秘儀を比較する。
◎確実に核戦争だ！／日本と世界の近未来を予言する。
◎総勢三十一名の体験談／「クンダリニーが覚醒する」「過去世が甦る」「悟りのプロセス」など、これが修行プロセスと霊的ステージの真実だ。

定価2163円　ご注文は書店にてお願いいたします。直接弊社にお申し込みの場合は下記まで。（送料300円）
オウム出版　〒154　東京都世田谷区世田谷2-8-17　電話03(3439)6043　郵便振替　東京2-109325

マハーヤーナ・スートラ

MAHAYANASUTRA

麻原彰晃 著

解脱――それは光を超えて

魂は彷徨する、自由を求めて。
魂は飛翔した、歓喜の世界へ!!



解脱それは、一言では表現することのできない深遠で、広大な世界。今まで、曖昧に定義されていた解脱の段階と状態について、この本はわかりやすく解き明かします。真理の最終地点を目指すあなたにとって、欠くことのできない宝書。

B6判296ページ(巻頭カラー8ページ) 定価3090円

●ご注文は書店にてお願いいたします。直接弊社にお申し込みの場合は下記まで。

オウム出版　(本　社) 〒154 東京都世田谷区世田谷2-8-17
TEL 03 (3439) 6043　郵便振替 東京2-109325
(営業部) 〒168 東京都杉並区宮前3-8-11
TEL 03 (5370) 1598

PART-7 仏教真理　八正道

最終解脱者のみが語り得る八正道の真の意味合い。高い解脱・悟りへ至る道を、具体的に、現代でもすぐに実践できる方法として説き明かす。巻末に「道に関係づけられた経典（道相応）」の現代語訳も掲載。

Ｂ６判　定価８００円

PART-8 仏教真理　六波羅蜜

大乗仏教における在家信徒の最も重要な修行法の一つ、六波羅蜜。この修行プロセスを着実に実践しさえすれば、在家でも必ず解脱へと至れる！　巻末には、高弟たちの体験談の特別付録付き。

Ｂ６判　定価８００円

PART-9 尊師、聖地インドを行く

尊師がインドを行く。不思議な神秘の力によって、様々な過去の事実を明かされる尊師。第一部では、信徒と共に行かれた巡礼の旅の全記録を、そして第二部ではなんと、今まで部外秘だった直弟子用奥儀説法を満載！

Ｂ６判　定価７５０円

PART-10 仏教真理　五蘊無我

わたしたち本来のものではない五蘊（形状・容姿、感覚、表象、経験の構成、識別）を我と錯覚し、迷妄に苦しむ人間。この五蘊を証智し超越することによって、わたしたちは人間を超え、神に至れるのである。

Ｂ６判　定価６５０円

PART-11 自己を超えて神となれ！



――大人気を呼んだ尊師大学講演会特集――。東大、京大をはじめ、九一年の大学祭で尊師が若者に、現代における宗教の存在意義等について語られた模様を一挙掲載。

Ｂ６判　定価820円

PART-12 仏教真理　十二縁起



サキャ神賢が初転法輪でお説きになった「十二縁起の法」。魂の落下と上昇のプロセスを克明にえがき、人間がこの世に生を受け、絶対的な自由の世界へ至る道程を明らかにする。

Ｂ６判　定価620円

PART-13 これが尊師！



雑誌・テレビ・ラジオにと、今大人気の麻原尊師。尊師の人気の秘密は何か？　雑誌社からの取材を中心に、様々な角度から尊師の魅力を探る。

Ｂ６判　定価570円

近日発刊予定

PART-15 幸福への道（仮タイトル）

Ｂ６判　予価570円



（価格にはすべて消費税が含まれています。）

● 全国の有名書店にてお求めください。弊社に直接お申し込みの場合は下記まで。

オウム出版
本　社　〒154 東京都世田谷区世田谷2-8-17 TEL 03(3439)6043 振替 東京2-109325
営業部　〒168 東京都杉並区宮前3-8-11 TEL 03(5370)1598



至福の未来をあなたの手に

オウム真理教

AUM SHINRIKYO

心身の悩みを解決したい
超健康体を得たい
豊かな生活を送りたい
素晴らしい人間関係を築きたい
スーパー・パワーを身につけたい
来世も幸福に生きたい
解脱し、永遠の至福を得たい



……などなど、様々な願いで頭がいっぱいのあなた。
日本でただ一人の最終解脱者・麻原彰晃尊師率いるオウム真理教は、完璧な教義に裏付けられた最高の修行法で、あなたの夢を早く確実に実現します。
素晴らしい未来を見つけに、あなたも気軽にオウム真理教の門を叩いてみませんか？

※資料請求券を貼付したハガキ、または電話にて最寄りの本・支部までご連絡ください。入信案内等、詳しい資料をお送りします。

キリトリ線

麻原彰晃の世界 PART14

資料請求券

◆各道場のご案内◆
富士山総本部　0544(54)1267
〒418-01　静岡県富士宮市人穴381-1
東京本部　03(3327)8565
〒156　東京都世田谷区赤堤2-42-5 杉田村松ビル1F
新東京本部（杉並道場）03(3396)9393
〒167　東京都杉並区下井草4-4-4　井口ビル2F
大阪支部　06(397)1022
〒532　大阪府大阪市淀川区西宮原1-8-14 八光ビル2F
福岡支部　092(474)2877
〒812　福岡県福岡市博多区博多駅前2-6-15 第一渡部ビル6F
名古屋支部　052(252)0709
〒460　愛知県名古屋市中区栄5-8-14 万国ビル3F
札幌支部　011(241)4938
〒060　北海道札幌市中央区北2条西2丁目19-1 チサンホテル本館2F
京都支部　075(371)3759
〒600　京都府京都市下京区堀川通り松原上ル五軒町384 松本ビル2F
仙台支部　022(268)3904
〒982　宮城県仙台市若林区河原町1-4-20 十全会ビル2F
金沢支部　0762(51)8457
〒920　石川県金沢市京町25-20 ソフトオフィスビル2+4 2F
高知支部　0888(84)8286
〒780　高知県高知市はりまや町2-8-8 安藤ビル2F
広島支部　082(264)6250
〒732　広島県広島市南区西蟹屋4-4-18 和田ビル3F
横浜支部　045(243)8079
〒231　神奈川県横浜市中区若葉町3-41-2 コスモ伊勢佐木長者町ビル204
和歌山支部　0734(24)2859
〒640　和歌山県和歌山市駿河町42 和歌山酒販会館2F
水戸支部　0292(26)8044
〒310　茨城県水戸市中央2-2-1 HDビル6F
船橋支部　0474(66)4965
〒274　千葉県船橋市新高根6-26-18
埼玉出張所　0485(74)6205
〒366　埼玉県深谷市萱場441-8
渋谷出張所　03 (3476) 5065
〒150　東京都渋谷区道玄坂1-15-3　プリメーラ道玄坂317号
〈海外支部〉
ニューヨーク支部　212(421)3687
8 East 48th St. #2E (2nd Floor), New York, N.Y. 10017 U.S.A.
ボン支部　(0228)616647
Auf dem Hugel 48, Endenich, 5300 Bonn 1,　S.R.Germany

麻原彰晃の世界 PART14
「宗教の条件」
1992年 3月20日　初版発行
定　価　570円（本体553円）
発行者　松本知子　石井久子
編　集　オウム出版広報編集部
発行所　株式会社オウム
〒154 東京都世田谷区世田谷2—8—17
電話　03（3439）6043　振替　東京2—109325

ISBN 4—87142—029—9　C0014　P570E

麻原彰晃の世界PART14

宗教の条件



ISBN4-87142-029-9 C0014 P570E 定価570円（本体553円）